

令和3年12月遠野市議会定例会会議録（第3号）

令和3年12月7日（火曜日）

議事日程 第3号

令和3年12月7日（火曜日）午前10時開議
第1 一般質問

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（小松正真、菊池浩士、菊池美也、小林立栄、佐々木恵美子議員）

出席議員（18名）

- | | | | |
|----|---|--------|---|
| 1 | 番 | 小松正真 | 君 |
| 2 | 番 | 佐々木恵美子 | 君 |
| 3 | 番 | 菊池浩士 | 君 |
| 4 | 番 | 佐々木敦緒 | 君 |
| 5 | 番 | 佐々木僚平 | 君 |
| 6 | 番 | 小林立栄 | 君 |
| 7 | 番 | 菊池美也 | 君 |
| 8 | 番 | 萩野幸弘 | 君 |
| 9 | 番 | 瀧本孝一 | 君 |
| 10 | 番 | 多田勉 | 君 |
| 11 | 番 | 菊池由紀夫 | 君 |
| 12 | 番 | 菊池巳喜男 | 君 |
| 13 | 番 | 照井文雄 | 君 |
| 14 | 番 | 荒川栄悦 | 君 |
| 15 | 番 | 安部重幸 | 君 |
| 16 | 番 | 新田勝見 | 君 |
| 17 | 番 | 佐々木大三郎 | 君 |
| 18 | 番 | 浅沼幸雄 | 君 |

欠席議員

なし

事務局職員出席者

- | | | | |
|-----|---|------|---|
| 事務局 | 長 | 朝倉宏孝 | 君 |
| 主査 | | 多田倫久 | 君 |

説明のため出席した者

- | | | |
|--|-------|---|
| 市長 | 多田一彦 | 君 |
| 副市長 | 鈴木惣喜 | 君 |
| 総務企画部長
兼新型コロナウイルス対策室長 | 鈴木英呂 | 君 |
| 健康福祉部長兼健康福祉の里所長
兼地域包括支援センター所長 | 菊池寿 | 君 |
| 健康福祉部医療連携特命部長
兼総務企画部新型コロナウイルス
ワクチン接種対策室長 | 佐々木一富 | 君 |
| 子育て応援部長
兼総合食育課長 | 磯谷洋子 | 君 |
| 産業部長 | 阿部順郎 | 君 |
| 環境整備部長
兼まちづくり推進課長 | 奥寺国博 | 君 |
| 会計管理者
兼会計課長 | 鈴木純子 | 君 |
| 消防本部消防長 | 三松丈宏 | 君 |
| 市民センター所長 | 新田順子 | 君 |
| 市民センター多文化共生
・本の森特命部長 | 石田久男 | 君 |
| 教育長 | 菊池広親 | 君 |
| 教育委員会事務局教育部長
兼学校教育課学校総務担当課長 | 伊藤貴行 | 君 |
| 選挙管理委員会委員長 | 菅沼隆子 | 君 |
| 代表監査委員 | 佐々木資光 | 君 |
| 農業委員会会長 | 千葉勝義 | 君 |

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。
これより本日の会議を開きます。

鈴木副市長より、午前中欠席の連絡がございますので報告申し上げます。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） おはようございます、小松正真でございます。

市長が代わられて初めての一般質問でございます。多田市長が前回の市長選で落選してから、この4年間、楽しいことも苦しいことも笑いながら時に喧嘩し、みんなで一緒に遠野市政を語り合ってきました。しかしながら、私にと

っても多田市長にとってもそして遠野市民にとっても、多田一彦という人間が市長になる、これはゴールではありません。遠野市が本当の意味で、公平で誰もが住みやすいまちになる、そのスタートであります。これからは、いいものはいい、悪いものは修正する、これまでどおりの私のスタンスで多田市長に対峙させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

さて、約20年続いた本田市政が10月に終わりを迎えました。20年という年月は、生まれた子どもが成人式を迎える、そのぐらい長い時間です。

この20年、さまざまなことがありました。一つに東日本大震災。震災後という言葉が生まれ、時代が大きく変わったんじゃないかなというふうに思っています。さらには日本全体が人口減少する社会に突入し、人口減少は地方の問題だけではなくなりました。

遠野市に目を向けて見ると、20年前から続く人口減少に歯止めがかかっておらず、さまざまな問題が解決されないまま時間だけが過ぎていく印象です。

遠野の人口は26,000人を割り込み、高齢化率は40.9パーセントと超高齢化社会となっております。遠野市にとって、この状況はピンチでしょうか。確かにこの問題を「ピンチだ」と言いながら指をくわえていけばピンチでしょう。しかし、私にはこの状況は確かにピンチではありませんけれども、チャンスだと見てとることができます。

2030年の日本全体の高齢化率は31.1パーセントと想定されています。現時点で高齢化率40パーセントを超える遠野市は、高齢化の先進地域であります。この遠野市で新たな政策、新たなビジネスを生み出すということは、今後10年以上にわたって日本全体でビジネスができるという可能性を生み出すこととなります。

本田前市長だからできたことは多いと思います。しかしながら、本田市長だからこそできなかったこともあると思います。ぜひ多田市長は持ち前の幅広い視野を武器に、この遠野市

の舵取りをしっかりと行っていただきたいという思いを込めて、若干前置きが長くなりましたけれども、私の一般質問を行います。

私の一般質問は、大項目1点、多田一彦市長の所信表明に対してということで、市政全般について総論を伺ってまいります。

最初の質問であります。先ほど申し上げたとおり、多田市長においては、10月17日に投票が行われた遠野市長選挙で当選され、一市民から2代目遠野市長に就任されました。市長になられてから約1カ月半経過いたしました。現在の遠野市、そして遠野市役所の印象をどのようにお持ちなのか。一市民時代と比べて市長になられた後、印象がどのように変わったとか変わらないとか、そこまでお話しをいただければと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ピンチをチャンスに変えていくという小松議員のお話し、私も東日本大震災の支援活動の際には、そういうふうに関心しながら仲間と取り組んだことを思い出します。2代目ってことに非常に違和感もありまして、遠野ってずっと歴史があったんだけどなんで2代目なんだろうと考えましたら、合併してから2代目ということなんです。私の中では子どもの頃、それこそ工藤千蔵市長、菊池正市長と、ずっと市長さんたちの思い出があります。宮守でもそうだと思います。こういう方々が市長室に写真がないのが何故か少し寂しい気がしながら、2代目なんだなということを思っていました。

これからも議論を重ねながら遠野市のことを一緒に考えていただきたいと思います。非常にざっくりとした質問で、なんて答えようかと考えました。簡単に説明するならば遠野市、遠野市役所、これどちらも、遠野市役所については守るべき家族が増えたと。遠野市についても、守るべき大きい家族が増えたとこういう印象です。家族を守るってことは、非常に責任の重いことでもありますから、ときには全体には優しく

しなければいけないんですが、ときには厳しく、ときには怒ったり、本音でぶつかっていくって、これが市政かなど。

もう一つは、思ったよりと言ってはちょっと語弊がありますが、外からは見えなかった部分、今回の議会に関しても市の職員、スタッフがどれだけ苦労して準備をしているかと、そういうことが現実的に分かりました。この気持ちってというのは、市長の気持ちを分かろうとすることがまず働くんですね。私が言いたいこと、例えば言葉にしていないこと、それをどういうふうにして汲み取ろうか、そして表現しようかということも一生懸命考えてくれるという点に関して、本当にすばらしいなというふうに感じています。

やりたいこととか、直したいことってというのは、市長とか市議会議員とか発言普段する人だけではなくて、一担当者でもあるんだなと、これ当然のことですが。それをどういうふうにして実現していくかっていうことについて議論をし、市長がリードしていく、これが大事だなということを感じています。

第一印象としてはそのような感じですよ。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 就任してですね、まだ1カ月半という月日しかたっておりませんので、今後ですね、ますますその情報の整理をですね、していただければなというふうに思いますが、今守るべき家族ということで、遠野市全体を大きな家族として捉えているというお話しでございました。ぜひですね、この家族をですね、また新しい方向性に導いていただければなというふうに思うところで、やはりですね、家族のですね個々の能力、これをですね最大限に引き出すようにしていただければなというふうに思うところでございます。

次の質問に入ります。市長の所信表明演説の中でも健全財政5カ年計画を着実に推進するとお話しをされておりました。市長に就任される前は、遠野広報や議会の予算・決算等でしか財

政の状況は知る由もありません。市長に就任された今、すべてを把握する時間はなかったかもしれませんが、今の財政の状態についてどのような印象を持っているのか、お伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 財政、いろんな遠野市からの情報発信の中で、主要3基金が、減っているというのは昨日もお話しをしました。一時的にはなくて継続的に減っていると。下手をすると令和7年には財政調整基金は、10億円を切って8億円になりますよという警告もあると、こういう状況であることは知っていました。もう一つ、昨日多くの議員から市民の生活基盤の整備、そしてコロナ対策の助成、これらの話もいただきました。何とかしたいというのが私の素直な気持ちであります。これを取り急ぎ、今急を要すること、1億円あったら何ができるだろうか、2億円あったら何ができるだろうか、こういうふうに夕べは考えていました。

やはり、そういうときに頼るのは基金ということになるのでしょうか。少なくとも、あと3億円、それが多くあってくればなというのが私の率直な思いです。

もう少しで10億円を切ってしまうという状況の中で、あと3億円ってというのは非常に大きなお金です。その思いが夕べは強かったです。ただ、やらなければいけないときには、度外視してやらなければいけないという状況があると思います。これが今なのか、もう少し先になるのか分かりません。議論をしなければいけないところです、ただ、少なくとも遠野市の意思決定をする最高機関、ここにいらっしゃる皆様が「こういうことはやろうよ」「この予算は作ろうよ」、こういう提案をいただいています。これには勇気づけられます。

ただし、この状態の中でそういうことをしていくことは市民に対しても痛みを分担してもらおう、こういうことにもなるということも考えなければいけないと思っています。各種の財政

指数っていうのがあります。これは健全に近い数字であります。しかし、減少を続けていては、取り返しのつかないことがある。これも事実であります。財政に対して、私の今の率直な感想です。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 健全財政5カ年計画を見ると、5年後、遠野市の貯金である財政調整基金、約8億円、年1億円ちょっとぐらいが減っていつている状況であって、多分、指をくわえてそのままにしておけば、それこそ10年後にはもう本当に枯渇してしまうんじゃないかなという心配をしてたところでございます。

今市長のほうから「あと財政調整基金3億円あれば、もうちょっと何かできるのにな」というお話がありました。市長はですね、市長選挙の際に5つの御提案ということで、市民に提案をしてみいました。今後ですね、より協議を深めてその5つの御提案をさらにより良いものとして実現をしていくということにはなると思うんですけども、先ほどの御答弁からすると、今の財政状況では、今その5つの公約とっていいんですか、その提案というものを、すぐ実行できる状態にないんじゃないかなというふうに思うんですが、そこいら辺の状況というのはどうなんでしょうか。すぐ、その着手できるもんなんでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 着手できることと、できないことがあるのはあらかじめ申し上げておきます。その上で、やっぱり頭を使わなければいけない、お金も生み出さなければいけない、今ある枠の中だけで物事を考えていては進みませんので、何とかして順番を決めて、できる方法を探していこうと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 市長おっしゃるとおり、できること、できないこと、国等の補助金とか

っていうのもあるので、しっかりとしたですね、歳入に目途をつけてですね、これから進めていかなければならないというふうに思います。しかしながら、市政課題は待たなしで進んでいます。厳しい財政運営を行いながらも進められるところから進めていく。選挙の際にも市民の皆様、予算の見える化と予算執行の順番の見える化を行うというふうにお話をされてきました。

今も市長からも順番という話もありましたけれども、今後、今の話を進めていくなかで見えてくるのかなというふうにも思うんですけども、現時点でその予算の使い方、この優先順位ありましたらお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まずそれには最初に検証が必要だと思います。しっかりと現在これまでのところを確かめるということもあります。それと、バランスを考えなければならない。例えば地域のバランス、産業のバランス、世代間のバランスとかいろんなバランスがあると思います。このバランスを見ないといけません。それから、この将来に向けたバランス。それとやはり市民の声を聞かせていただくということを私はお話ししてますので、その声を基に、また、その優先順位っていうのは皆さんにもお諮りをしながら決めていく必要があると思います。そして重要なことは、その市内部の検討過程、これらをしっかりお知らせしていく、見えるようにしていく、それが見える化といたしますか、そういうことにつながると考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 今市長から検証とバランス、これを見ながら予算を執行していくんだというふうに御答弁がありました。私もまさにそのとおりだというふうに思います。なかなかですね、これまで遠野市は検証という言葉を目にする、何かこう批判をしてるみたいな感じ

で受け取られかねないところがあったので、しっかりとですね検証をしていただきたいというふうに思うんですけども、これをこの予算の優先順位を決めるためには、これまでの政策、予算の使い方などが正しく検証されなければいけないというふうに思います。

私の選挙公約は、この検証でございましたから、議員になって約3年間、検証という言葉をよく使ってまいりました。先ほど申し上げたとおり、これまで遠野市では多くの政策や事業が行われてきましたが、本当に正しい検証がなされてきたのでしょうか。正しい検証を行い、その政策や事業がよかったのか悪かったのか判断をしなくては前に進むことはできません。例えば、市民センター構想の十分な検証を行わないままスタートした、小さな拠点による地域づくり。赤字が全く解消されないままの第三セクター。多額の予算を投じて計画を作るだけで検証を行わず、計画の上塗りをする中心市街地活性化。昨日の市長の御答弁の中にもありましたが、市役所本庁舎建設に代表する、建設工事と追加で発注された工事などあげ始めれば切りがないです。市長の所信でもあったとおり、遠野市は多くの問題を抱えています。その問題の一つひとつが良かったことはもっと良くなるように、悪かったことは反省し、事業を継続するか廃止するか判断をしなければいけません。

そこで、お伺いをしますが、新年度に向けて予算編成を行わなくてはいけない時期にも差し掛かっているのは十分承知していますが、新年度、そしてその後の遠野市のために検証を行わなくてはなりません。その検証方法についてどのように行っていくつもりなのかお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず、最初は市長に就任して担当課にいろんなことを聞きました。なぜこういうふうになってるのかってことを教えてもらおうと。勉強から自分自身の検証、そこにつながるために担当課も検証しながら答えるっ

ていうことが、まず始まっていると思います。そのほか検証の方法としては、監査とかいろいろあります。ただ、お金だけを見るのではなくて、その効果とかさまざまなものを見ていかなければならないので、その検証に関しては、その事業の効果とかさまざまなこと、これに関しては市民の方のお力を借りるとか、その事業と一緒にしてきた方の様々な御意見いただくとか、そういうなんて言うんですかね、一つ、二つではない方法で検証していかないと多分時間もないし難しいだろうなど。システム的なこともある。それと進捗状況のチェックっていうのは、現在のところそのまちづくり指数というのもございますが若干分かりにくい。全国的にやってるものですから、おおざっぱになっている。もう少し細かい部分での検証というものをする必要あると思います。これには、市議会議員の皆様にもいろいろお手伝いをいただきたいというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 市長御自身が検証されるもの、監査委員の皆さんにお願いするもの、そしてまた第三者の手を借りるもの、さまざまな手法を用いてですね検証を行うということだというふうに理解をいたしました。

1点だけですね、ちょっと提案をさせていただきたいというふうに思うんですけども、これからですねどのような検証方法を行うにしてもですね、例えば検証委員会みたいなものを作ると仮定してですよ、例えば10人いる検証委員会の中で、例えば10人中例えば5人とか3人とか、5割から3割ぐらいの人を例えば市民から公募するだとか、ぜひですね市民の皆さんの手を借りてですね検証をしていただければなどというふうに思うんですけども、例えばこれまで遠野市も諮問委員会みたいなものが多くありました。得てしてですね、この諮問委員会などですね、同じ顔ぶれになることが非常に多かったというふうに印象が私の中であります。どの

会議が役員とか見ても結構同じ顔ぶればかりなので、そういったものをですね、ぜひ変えていただければなど。なので、新しく作る、例えば検証委員会みたいなものがあるとすればですね、同じ顔ぶれにならないように1人が1つとか2つとかその程度におさめていただいて、多くの市民の皆様を検証活動にですね参画をいただけるような仕組みづくりをしていただければなどというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今のご意見、確かにそういうこともあります。必要でもあります。参考にさせていただきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） ぜひ御検討をいただきたいというふうに思います。

正しい検証を行うためには、正しい情報公開を行わなくてはなりません。ちょっとですね私の経験からお話しをさせていただきますが、市議会議員になって一番最初に驚いたこと、今でも忘れることができません。市議会議員って市役所と同じレベルの情報を持って仕事していると思っていました。

しかしですね、情報くださいって当局にお話しをしたらですね「情報開示請求というのをしてください」って言うんですよ。これ文書で出して2週間ぐらいとか3週間ぐらい経って、私お金を払ってその情報をもろうという作業をずっとこの3年間続けているんですけども、やはりですね正しい検証を行うためには、同じレベルぐらいの情報を持たなくては正しい検証というのはできないんじゃないかなというふうに思うところです。ぜひですね、市長の情報公開に関する考え方をですねお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 情報公開というちょっとざっくりおおざっぱな感じなので、どうい

う回答がいいかっていうのはちょっと想像するところ、一般的な情報公開と、特殊な情報公開みたいなのに分けてお話ししたいと思います。

一般的な情報公開は、やはりホームページとか遠野テレビとか、または市役所の中に閲覧できる場所があって自由に見られる、こういう方法でやることができるかなと。

特殊な部分に関しては、事業の特に事業とか進捗状況とか経過ですか、協議経過であるとかそういうことになると思います。これはやはり申請して見ていくというのが、出す書類の全部ファイルを出すわけにいかないと思いますので、見たい部分をお知らせしていくということになると思います。

もう一つ、その市議会議員の立場としてということになると、一緒にやっていくという考え方からすれば、もう少し深い情報を共有してしかるべきかなというふうに思います。それと同時に、もう少しこう担当課、事業担当ありますよね、建設とかさまざま教育とかあると思うんですが、その部分でその仕事をしっかり普段から情報を共有しながら、相談しながら会議テーブルもありますので、たまには役所に行って仕事のお手伝いをさせていただくとかですね、そういうことがやはりその情報で共有していきける環境になるのかなというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） 市役所の中に入って私たちが仕事できるかといったらば、ちょっとそれはまた別の問題なのかなというふうに思うんですけども、ぜひですねその市議会議員もしくはその検証委員などですね、しっかりとした情報の開示をですねしていただかないと、正しい検証ができないというふうに思いますので、ぜひそこいら辺の情報の出し方というものをですね、今後ますます検討していただければなどというふうに思うところです。

最後の質問にいたしますが、これはほかの市町村の事例でございますけれども、首長が選挙人名簿の持ち出しをしたという報道が、今全

国賑わしているところです。選挙人名簿や住民基本台帳など遠野市では多くの個人情報を取り扱っているところです。情報の公開と情報の管理のバランスというのは、大変重要な問題だと私も理解をしているところです。

ついてはですね、これまでの遠野市では選挙人名簿や住民基本台帳などの管理は、正しいルールの下行われており、情報の流出ということは考えられないというふうに私も思っているんですけども、その他市町村のような事例はないと考えていますが、情報の管理までが検証対象であると認識をしてよろしいかお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 情報の管理までが検証状態というよりは、情報管理というのは常にやっつけていかなければいけないことだと思います。とはいえ、私はまだ情報の管理の状態についてはまだ踏み込んでやっていませんので、これも追い追いかけていく必要はある。個人情報がどのように守られているかということは、遠野市だけではなくて行政として義務ですから、しっかりと管理されてるとは思いますが常に確認をする。情報が出たらわかるような形でなければいけないと思いますので、その辺は確かめていきたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 1番小松正真君。

〔1番小松正真君登壇〕

○1番（小松正真君） ぜひですね事故の起きない体制づくりをしていただければなというふうに思います。

多田一彦市長の座右の銘、所信表明の最初でもご披露なされてました。「人生意気に感ず」。これは中国唐王朝時代の政治家が初代皇帝李淵から評価されたことに感激して歌った詩の一節とのことです。人間は相手の志や思いの深さを感じて仕事をするのであり、手柄を立てることや金銭などは二の次である。遠野市民のために仕事をするという、多田一彦市長の思いを表していると私は感じると思います。

一般質問の最後に、市長に同じく唐の第2代皇帝李世民の言葉を送ります。

「銅を鏡とすれば、衣冠を正すことができる。歴史を鏡とすれば盛衰を知ることができる。人を鏡とすれば、得失を明らかにすることができる。」。

今後、あらゆるものを鏡として市民の命と暮らしを守る市政運営をしていただきたいと思います。

以上で一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、暫時休憩いたします。

午前10時36分 休憩

午前10時38分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。3番菊池浩士君。

〔3番菊池浩士君登壇〕

○3番（菊池浩士君） 遠野令和会の菊池浩士でございます。まず最初に、このたびの市長選挙当選おめでとうございます。

本会議初日に行われた新市長の所信表明演説を聞いての、私なりの感想を述べさせていただきます。

昨日も、萩野議員の質問にもありましたが、選挙の争点は、継続か刷新かであったと私も思っております。多くの市民の支持を得て当選した市長にはその期待に応えていく責任があります。そのことを踏まえて聞いておりましたが、市長はどちらを求めているのかが見えにくい内容であったと思います。政策のことについては、3月市議会定例会に方針を示すとのことですので、市民にも分かりやすい形でお示しいただきたいと思います。私も新市長には大いに期待しております。私の感想でありますので市長に答弁を求めるものではありません。

それでは一般質問に入らせていただきます。

大項目一つめ、第2次遠野市総合計画の後期基本計画について4点ほど、大項目二つめとして、新型コロナウイルス収束後の経済活動に

ついて3点、この収束の意味は終わる「終息」ではなく束ねて納められる状況にある今の状況のことです。一括質問方式で質問させていただきます。

昨日、萩野幸弘議員の質問にもありますが、遠野駅舎の問題を質問させていただきます。ウイルスのまん延によってJR側との協議の場がなくなり、2年が経過しており、現在この計画がどのようになっているかの状況を確認させていただきます。

同僚議員の質問の内容で、市長のお考えを聞くつもりでしたが、同じような多分答弁になると思いますので市長のお考えは、昨日の時点で分かりました。

この計画は、平成27年に着手されており、すでに7年が費やされており、耐震強度の問題もあり、利用者の安全を考えると早期に結論を出さなければならない案件の一つであると思いますが、市長の見解を伺います。

次に、駅舎、あすもあ、こども本の森遠野を含めた中心市街地の活性化について聞いてまいります。あすもあについてはなかなか使い道の定まらない施設となってしまっていますが、私の考えを述べさせていただきます。

私はあの施設を、遠野市観光協会がコンビニの形態を持った、当然、観光協会が経営するわけですから、おみやげ品なども置いたショップがいいのではないかと考えております。駐車場スペースもなく、民間の経営者ではなかなか難しいと判断するところであり、観光協会が経営することで赤字では困りますが、大きな利益が出なくても長く経営できるものと考えられます。遠野に宿泊する観光や通学に列車を使用している学生は、学校までの道すがら開いてる店もなく、不便を感じているようです。

また、観光客におかれても「夜何か食べたいな」と思ってもお店がもう閉まっている。「どこかないんですか」と聞かれます。そうすると、もう車を動かして行かなければならない距離にしかそういったお店はございません。夕方ですから、お酒を飲んでいれば当然車を運転

できないわけで、我慢を強いられるという状況になっております。これを改善できるのではないかと考えての話でございます。これについても私の勝手な思いですので、市長にこのことについてどう回答を求めるものではありませんが、何らかの参考にしていただければと思っております。

続いて、こども本の森遠野、蔵の道ひろばを含めた中心市街地と言われるエリアは、遠野駅前通りから中央通り、下一日市、上一日市、昔話村、博物館、あえりあまでの動線をどのようにつないでいくか、観光客に回遊していただく仕掛けが必要と考えます。これまた提案型で質問させていただきますので、私から一つ提案させていただきます。

一日市通りの歩行者天国であります。今までイベント等で歩行者天国にしている事例がありますが、年に1日、2日ではなく、定期的に例えば「毎月第1、第3土日は歩行者天国ですよ」とか、本当は毎週末と言いたいところではありますが、年間を通して続けることにより、本の森にいらした子ども連れの家族にも外に出ても安心して「もっといたい」と思う時間を提供できるようになり、長い時間いてくだされば飲食をすることになり、周辺の商売の形態が変わっていくことが期待できます。空き家になっている店舗にも新しい経営者が参入してくれたり、空き地や駐車場には屋台が出たり、ちょっとした遊具が置かれたり、人の動きが出てくるのではないかと想像できます。通年やることで季節に合った企画といたしますか、イベントですね、いろいろな人たちがどうしたら賑やかになるか、どうやったら儲かるかを考える、これらの活動がまさに活性化ではないでしょうか。

先日、失礼しました、先月20日の土曜日、11月20日でございます。青年会議所さんの企画で宮守魅力市が開催されました。朝市をイメージし、朝7時30分から午前中というイベントでしたが、私も孫を連れて行きました。8時頃もう現地には着いたのですが、すでに市民の方々が大勢いらして、とても楽しそうでした。市長

ともお会いしましたので御覧になったと思います。

宮守の町の一部を歩行者天国にし、宮守総合支所、宮守消防署と人々の回遊が見られました。とてもいい企画だったと思います。会議所の皆様もいろいろ大変ではあったと思いますが、コロナの影響で塞いでいた市民の心が少し晴れたように感じました。企画した会議所の方々も充実感があつたのではないかと考えています。

私の考えを一つ述べさせていただきました。通告しておりませんが、よければ市長の感想をお聞かせいただければと思います。

提案をしながらの質問でございましたが、大項目一つめの最後に確認しておきます。後期5カ年計画については、所信表明演説を聞く限りでは、大きな方向転換はないと認識しましたが、私の理解でよろしいか伺います。

それでは次に、大項目二つ目の新型コロナウイルス収束後の、先ほども申しましたように収束は終わりではなく今の状態のことです。経済活動についての質問に入らせていただきます。

コロナ感染の状況は、経営者にとっては収まりかけては、またまん延を繰り返し、終わらなき我慢の連続で経済活動は衰退し、経営者の中には持ちこたえることができないと廃業を決断する方も出てきておる状況であります。

国の経済対策事業や県の事業、また市の独自の支援策などで多くの支援が展開されていますが、経営者にとっては金銭的なことだけではなく、心が折れてしまうことが一番心配するところでもあります。ここ何か月間の状況は、何とか感染がコントロールできるレベルを維持してきていると考えています。経営者にとっては、この機を逃すまいと考えていることと思います。飲食店利用のみならず、スポーツ大会や各種イベントの開催を後押しし、経済活動が動き出すような積極的な市長のメッセージを発信してはどうでしょうか。市長の考えを伺います。

新たな変異種が発生したことなどから、まだまだ収束までには時間を要すると思われるこ

とから、引き続き支援をしていくことが必要であると思います。どのような支援策があるのかをお示しいただきたいと思います。

私の質問の最後になりますが、コロナ収束を見据えて、戦略的に集客を図るため積極的なPRを行うべきではないかと思っています。

コロナで行動が制限されていた反動で、全国民がどこかに旅行したいという思いから、報道番組を見ていると各観光地で人が増えている光景を目にすることが多くなっています。ぜひ遠野でもその光景を見たいと思うのは私だけではないと思います。

私が経験した観光戦略を一つ紹介したいと思います。

コロナ前ではありますが、青森三沢の温泉に行ったときのことであります。宿に入ると4、50人の団体客がフロントに集まっていました。その人たちの会話が耳に入ってきました。関西弁でした。青森に行ってこんな大勢の関西弁を聞くとは思っておりませんでした。

夕食時に隣り合わせになったお客様に「どちらからですか」と尋ねると「大阪からです」とのことでした。旅行社のツアー客なんだなあと思っていたら、このホテルの企画のツアーだと聞かされました。三沢の空港にホテルのバスが迎えに行き、日中の観光ガイドもホテルの従業員、夕方ホテルに連れ帰り、夕食時には郷土芸能、参加型の郷土芸能でございましたが、この郷土芸能を踊っているのも従業員でございました。次の日には市内観光、当然このガイドもホテルの従業員でございます。空港に送っていただいてお帰りいただく。空港に降りたときから空港を飛び立つまでのこのホテルが関わるこの企画を、年4回、四季に合わせて行っているそうです。こういった観光戦略があるんだなと感心した経験があります。

このホテルは大きなリゾートホテルでしたが、やろうと思えば遠野でもできると思います。方法はいろいろあると思います。

遠野市は釜石道の開通、また三陸道開通により、秋田、仙台、八戸まで「商圏」、商える

範囲という意味ですが、商圈ではないでしょうか。

空路については、関西、中部、札幌、また新たな路線も検討されていると聞いています。

遠野にはすばらしい観光施設、文化、自然、郷土芸能、多くの財産があると思っています。ぜひこれらを全国に紹介して知っていただき、観光客の集客を推し進めていただきたいと考えております。市長はどのような戦略をお持ちか伺いたいと思います。

以上、私の一般質問は終わりますが、新市長の下、遠野市がどのように変わっていくのか、期待しております。市政のあり方に注視していきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午前10時58分 休憩

午前11時08分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。3番菊池浩士君。

〔3番菊池浩士君登壇〕

○3番（菊池浩士君） 訂正をお願いいたします。先ほど一般質問を終わりますと言いましたが、1回目の質問を終わりますに訂正させていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ただいまは、各種の御提案をいただきながら質問ということで、私もどのように解釈して、どのように答弁をするかってこと考えながら聞いておりました。なかなかまとめにくいところでありました。思いついたままに私も忌憚なく意見を述べさせていただこうと思いますが、継続か刷新かという話しが最初にありました、見えにくいと。昨日もいろいろお話しをさせていただきました。

その中で「継続だけ、あるいは刷新だけという考え方はないよ」というお話しをさせていただいたんですけれども、その点の御理解はいただいているようですよ。

また、駅舎について、駅舎についてということでした。早期に結論を出さなければいけない問題であるという議員のお話しでした。しかるに、これまでの議会の中で駅舎の協議をされていたか、議論は。早期に結論を出さなければいけない問題であれば、しっかりともっと向き合って議論をされるべきではないかと私は思いました。なぜかと言いますと、私も情報がなくて心配でした。浩士議員は情報を得られる立場にあるのですから、もう少し議論を踏み込んでいただいて、市民にもお知らせをする、これが必要だったのではないかと私は率直に感想を持ちました。

また、7年前に始まったこの協議、7年前には耐震性に不安があるということだったと思います。それから現在まで7年が過ぎました。早急に結論を出すということですが、昨日もお話しをしたように資金の問題、計画の問題、JRさんとの条件的な問題、さまざま課題がありますよってことも昨日申し上げました。

これらについて、これからしっかりと情報を公開して、皆様の御意見をいただきたいということに、昨日までのお話しで回答を申し上げておりましたので、これは同じ回答をさせていただきます。

また、あすもあ、これについての提案。ショップは現在の観光協会の所にもあります。ですから、ショップの使い方、やり方というのはこれから工夫が必要だと思います。また、あすもあについては、もっともっと意見をいただきながら、私もプランはあります。

ぶつけ合いながらいい方向を求めていきたいと思います。勝手な提案ですということでしたが、もう勝手な提案をどんどんすることが私はいいいと思います。

そして中心市街地、一日市、歩行者天国、これいいですね、やっぱりイベントとしてやっていくのもあるけれども定期的に。ただ、中心市街地の問題は、もう何年も前からやっていることです。もっともっと令和会さんとしても提案をして、以前からそういう取り組みに向かう

ようにリードしていくという方法もあったかと思えます。

宮守の魅力市、これはよかったですね、とても私もよかったです。若い人たちの取り組む姿勢とか意気込みが本当に感じてきました。あそこは最高の宿場町です。これからももっともっと私は応援したいし一緒に手伝う、そういうつもりでおります。

後期5カ年計画については、ちょっとおかしいなと思えますけれども、大きく方向転換、この計画のことは大きく転換がないとかっていうことですが、大きな転換を基本計画から図るっていうことは、私1人で決められることではないです。これも昨日申し上げました。

基本計画はしっかり議会でも議論されて決めたことです。これを私が勝手に変えることはありません。ですから尊重申し上げるという姿勢をお示しいたしております。

その上で必要な状況に合わせて、変えていく、進化させていくこういう説明をさせていただいております。理解というのは難しいなと、私の感想です。一生懸命、昨日も説明したつもりですけども、ここで理解がまた違ってきているということは、やっぱり私の発信力これではまだまだいけないと、もっともっと勉強して皆さんにわかりやすい説明をするように努力しなければいけないというふうに思いました。

コロナ対策についてですね。コロナと観光でしょうか。観光のアピールということを考えるならば、ずっと遠野は観光の町というふうに謳ってきたはずですが。なおかつ今も観光についてはどうでしょうか、コロナ以前からですね、という話しが盛んに交わされています。

中心市街地と観光、ふるさと村、さまざま名称がある遠野の観光、今本来ならば、今そのコンテンツの整理をしなくてももうできているはずなんです本来は。普段できているものがさらに磨きをかけながら発信されていくべきなんです。ところが、まだまだ普段が不十分だということの表れです。

ですから私は観光協会を先頭に、しっかり

私も、市民の皆様も、議員の皆様にも参加をしていただきながら遠野の観光をもう一度見直す。そして観光協会を応援していく、こういうつもりであります。

そのコンテンツが、PRコンテンツができていない。本来はここに問題があるはずですが。しかし、現在そういう状態であるのですから、そこは一緒に頑張りましょう、そして、しっかり発信をしていきましょう。そういうふうを考えています。

コロナに関してメッセージ。もう少し経済を活気づけるとかそういうメッセージだと思います。

私は役所内でも話しをしております。現在のこの収束状況を見て、今が隙間でまたなるかもしれないけれども、人の命と暮らしを守るといふ、あるときは相反することになるかもしれないことについても、しっかりと両方守るために勇気を持って進んでいかなければいけない。ですから経済活動もやりましょう、こういうふうに話しをしております。しかし、細心の注意は必要です。これをしない、何でもいいからやる、これじゃないです。細心の注意を払った上でやっていきましょう。そういうふうにお話しをしておりました。

ホテル、イベント、青森のホテルの話ですね、これは本当に非常にいい話だと、いい御提案だと思って聞いておりました。

つい先日も観光関係者と全く同じような話しをしておりました。もっともってそういう遠野には民族芸能もいっぱいあるし、民族芸能じゃないですね、郷土芸能もいっぱいあるし「やれることあるよね、やる場所もあるよね」。新田勝見議員もどんどんそういう場が必要じゃないかと、そういうお話しをしました。本当に活躍する場所あります。コロナの後に市民がそして日本でいろんな各地からいらっしゃる方々が勇気を持てるような郷土芸能が遠野にいっぱいあります。これを活かしていくということ、ホテル、その他の施設を活用するという、これは本当に必要です。

心が折れないように寄り添って伴走しながら、みんなで励ましながら遠野のこれからの未来を切り開いていきたいというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 3番菊池浩士君。

〔3番菊池浩士君登壇〕

○3番（菊池浩士君） 御答弁をいただきました。一般質問についての考え方でございますけれども、「令和会は」とか発言なさりますが、令和会の一員ではありますが一般質問に関しては個人の見解として話しておりますので、そこはちょっと勘違いしてるのかなと思うところがございます。

私の提案に賛成していただける部分もあり、心が少しゆったした感じがします。

ぜひ議会のほうも精一杯の協力をしていきたいと思っておりますし、一彦市長の何て言うんですかね、やる気に私たちも真剣に取り組んでいこうと新たな決意をしたところでございます。何も答弁を求めるところはございませんので、これで一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、暫時休憩いたします。

午前11時22分 休憩

午前11時23分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 菊池美也でございます。ここに10月18日のとあるネットニュースの記事のコピーがあります。一部読み上げさせていただきます。

「任期満了に伴う岩手遠野市長選挙は、10月17日投開票が行われ、無所属の新人の多田一彦さんが初当選を果たした。多田さんは財政運営の安定化や市民活動をサポートするシンクタンクの開設、介護専門学校の創立などを訴えてきた」。記事は、市長の素敵な言葉で最後締めくくられております。「初当選を果たした多田

一彦氏『遠野の未来を切り開く子ども、若者たち、その未来を切り開く、だからオール市民でやっていきます』」。所信の一端が見受けられる言葉かなと感じております。当該記者は、多田候補者が訴えた数ある項目の中で、特にこの三つ、「財政運営の安定化」「市民活動をサポートするシンクタンクの開設」「介護専門学校の創立」を取り上げ、記事にした。限られた紙面、文字数の制約の中での表現でしょうが、多田新市長が特段にも強調し訴えた項目であったからだと思います。選挙公約って何ぞや、改めて確認しますと、選挙の立候補者が当選後に実施すると有権者に約束する事柄、実行を有権者に約束する政策です。

一方、マニフェストは候補者が政権獲得後に実施する政策を具体的に挙げ、実施時期と予算措置について明確に有権者に提示した文章。

市長のお考えをもう少しマニフェスト的に具体にお示しいただきたいと存じます。

それでは最初の質問をいたします。財政運営の安定化とは、あえて意地悪な尋ね方をします、御容赦ください。

今遠野の財政は不安定ですか。健全財政の維持ではなく安定化と表現なさった。公約として掲げた理由と具体的な内容をお示してください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 公約に掲げた意味、これ財政は安定させる、健全を維持させる、これ当たり前のことだからです。

○7番（菊池美也君） 不安定かどうか。

○市長（多田一彦君） 不安定かどうか。

○議長（浅沼幸雄君） 議長を通してやってください。

○市長（多田一彦君） 不安定かどうか。不安定っていうのは上がったたり下がったりってことです。不安定、安定、健全維持ということ、その言葉の議論をする意味があるのかどうかっていうこと自体に、私は疑問であります。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 意味合いとしては、健全財政を維持していきたいんだということですよ。よろしいですね。

先ほど来というか昨日の御答弁の中でも主要財政三基金3基金、主要財政の基金の積立が8億4,500万円ですと、そういった見通しが令和7年に立っているよというところで市長の御答弁終わってますね。確かに、8億4,500万円というね見通しは、令和2年の11月に第四次遠野市健全財政5カ年計画を策定するにあたって、そういった推計があるぞということで四次計画が練られた訳なんですけれども、そこで市長の答弁終わらずにですね、ぜひ市民の皆様にご伝えていただきたいのは、じゃあ四次計画どういったものなのか、その主要財政3基金の残高は、令和7年度、16億1,400万に向かって計画を進めていくんだよと言ってますよというところまで伝えて欲しいんですよ。8億4,500万円だよとそこで終わらずに、今実際計画は16億1,400万円のもの令和3年度から始まっている。そこまで伝えてあげないと不安だけ残ってしまうんじゃないかなと。計画をしっかりと守りながら、健全財政を維持していきたくて意味合いでしたよね。もう一度お尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 健全財政は維持されるべきものです。しかし、令和7年にはこういう金額になりますよ、このままであればということとは真摯に受け止めるべきであって、ここに危機感を持たない方はいないだろうと思いますが、美也議員は持たないようですが、つまり、その四次計画の中ではだから16億まで行くように、しかしこれは、まるっきりこのままでいくとこうなりますよっていうのと、ここにあげますよというのは、具体策がそこに必要なんです。その具体策をこれから、われわれが相談し変えていかなければいけない、そこです。ですから、それを言ったから、それを言わないからというようなことではなくて、根本的なとこ

ろにしっかりと焦点を当てて議論していきましょうというのが、私の申し上げたいことです。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 決して、だから伝えて欲しいのは、市民の皆様への安心感ですよ。8億4,500万円だっていうところで止まらずにですね、だから計画を立ててる。

実際、令和3年度から令和7年度の5カ年計画スタートしてる。何もしてないから減っていくんだというだけでおさまってるんじゃないで、今現在も計画はスタートしてるんですよ。計画見直すってことじゃ、必要があればね当然見直さなければいけないんでしょうけど、計画があるんですから、それに基づいて進めて欲しいなと思いますし、正しいところとか不正確じゃなくてね、なんか途中でやめちゃうと伝わらない部分があるんじゃないかなって思ってます。述べさせていただきました。

あとはですね、じゃあ主要3基金の年度末残高、どんどん減ってしまったよっていう表現もあったんですけど、計画よりもね減ってしまったよって表現あったんですけど、じゃあなぜ減ったのか、その間何があったかっていうこともね、ぜひ伝えて欲しいなと思います。

これも財政5カ年計画の中に触れられてあるんですが、当然人口減少してますから地方交付税の減額があったという影響もある。それから、平成28年の台風10号による豪雨災害からの復旧にかかった。

あとは、この間特異なことは、下水道事業及び農業集落排水事業の公営企業会計へ移行したこと、減価償却分の繰り出し金が必要になって一般会計から一般財源が必要になって基金の取り崩しになったという表現が、表現というか、そういった結果があるんですよ。減ってしまった、確かに減ってしまったという事実があるんでしょうけど、どうして、なぜ必要だったのか、切り崩さなければいけなかったのか、そこもねぜひ伝えて欲しいなと考えてやりました。今表現をさせていただいております。

財源という話になると、市債っていうのも貴重な財源だと思うんですね、地方債。地方債って何だろうっていうと、簡単に言えば市が国や銀行等から借りのお金のことです。市債とは、主に市が公共施設の整備などの建設事業を行うために必要な資金を、国や金融機関など外部から調達するいわゆる借入金のことを言います。また、建設事業を行うために調達する借入金以外に、臨時財政対策債っていう市債もあります。これは国から交付されるべき地方交付税の不足分を補うために設けられているもので、どの地域に住む国民に対しても一定の行政サービスを保障するための財源です。

借入金である地方債ですが、その発行には二つの機能があると言われていています。機能の一つ目が、毎年の財政負担の平準化。ある年度に公共施設の整備が重なった場合には多額の経費が必要になります。もしこの年度に地方債の借入れを行わず全てを税等で賄ったとすると、他に必要な市民サービスの提供にまで支障をきたしてしまう。市債はある年度の過大な財政負担を軽減し、他の年度へ財政負担を平準化させることで計画的に、つまり安定的に財政運営を行うための機能も有しています。

機能の二つ目、現在の市民と将来の市民の負担の公平。地方債は現在の納税者と将来の納税者との間の負担の公平を図るという機能も合わせ持っています。例えば図書館などの社会教育施設などを全額その年度の税収で建設したとすれば、完成後に市内に引っ越してきた人は建設費を全く負担せずに施設等利用できることとなります。これでは元々住んでいて建設費を負担した市民との間に不公平が生じます。

地方債は返済が長期にわたる結果、新たに市民となった人も償還金という形で建設費を負担することになり、税負担の公平性を確保することができる。

質問をいたします。市債を発行する必要性、この二つの機能について、市長の御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） まず先ほどの基金について、その理由、明確なその時の名目だけではなくて、その背景にはそのことに充てるお金がないってことがあるわけで、基金を崩す時にはその時の理由が必要なので、その理由がそこにあるということなんです。ですから全体的なバランスの中でお金がないからそれをやらなければいけないということになるわけで、それはつまりないということの証明であって、そのあと、しっかり補完できていけばそれはまた回復できるというものです。回復できていないというところからすれば、それは安心を与えることはできないということです。

ですから、私はあえてそういうお話をいたしましたということを付け加えさせていただきながら、ただいまの地方債、これは質問ですけども、もう既に説明の中に答えがあると思いますが、いろんな機能がありますよね、借金っていうことだけではなくて、市税のそして交付税と足りないところを補完していくということもあります。あとの機能については、財政支出と財政収入の年度調整、住民負担のおっしゃるように世代間の公平のための調整、一般財源の補完。これを弾力性を持って使っていくための方策ですね。

次に、国の経済との調整という機能があります。いずれにしても景気等対策していくには使うことは考えなければいけないし、多くの自治体がそういうことによって一時的に事業の目的が達成できるというようなもので、私は必要であるというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 基金の主要3基金残高の計画も各年度ごとに建てられているんですね。

市長、改めて確認させてください。基金を積み立てるために、歳入があるんだけど歳出を抑制する、そんなことではないですよね。計画通り、計画を目安に、歳出と歳入のバランスを取っていく、基金を増やすために歳出を抑える。

優先順位をどっちに取るかだと思うんですが、そういったことではないですよ。基金の計画を達成するために緊縮財政を取る、そういったことではないですよ。ないですよっていう確認です。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ちょっとあまりお聞きになってる意味がよくわからないんですけども、必要な事業を必要な方法でやっていく、その結果として基金に余れば回すし、でなければ借りるとか貯金を切り崩す、緊急事態にはいろんなことがありますよというふうな考え方でやっていますので、ごく当たり前の考え方だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 私がこだわりすぎかもしれませんが、不安とかね見込みとしてこういった心配があるんだぞという最初にね、見通しがどんどん何もなければ減っていくぞっていうところで終わってたので、ちょっと計画とは違うなっていう思いがあったものですから、確認をさせていただきました。

○7番（菊池美也君） 遠野市の健全財政5カ年計画を…

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

○7番（菊池美也君） 遠野市健全財政5カ年計画を…

○議長（浅沼幸雄君） ちょっと発言少しお待ちください。議事進行、小松正真君。

○1番（小松正真君） すいません、先ほどから何か質問者が計画と違うっていう話をずっとしてるんですけど、その計画とどこが違うのかっていうのを私は分からないんですよ。だから今計画と違う所はどこなのかっていうのをしっかりと話しをして欲しいんですけど。

○議長（浅沼幸雄君） 議事進行した小松正真議員に申し上げますが、質問者は菊池美也議員であり、答弁者は多田市長でございます。

多田市長のほうからわからないというお話

しがあれば反問ということもございます。

小松正真議員がわからないというところで議事進行というのは受け付けられません。小松正真議員。

○1番（小松正真君） ちょっと話し方変えます。計画に合っていないような話をしているので、その今発言が正しいのかを議長に検証していただいて、どうするか対応していただきたいと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 先ほど申しあげましたように、答弁者は多田市長でございます。

多田市長のほうから「計画がないのに何で質問者が計画を持ち出すんですか」という発言でもあればですが、そういう発言はございませんので、このまま進めさせていただきます再開します。続けてください。

○7番（菊池美也君） 計画ですから手元にあるんですよ。だからこのグラフ、概要版であり、5カ年計画であり、それに基づいて質問を展開をさせていただいております。

地方債のその二つの機能についての、市長の認識、僕と同じでございます。必要なもの、財源の一つとして捉えていかなければいけないと思います。

市債の発行を行うと将来、元金の返済のほかに利子の支払いが必要になります。将来の元金と利子の返済は市の財政を悪化させないのでしょうか。このようなね不安を抱く場合もございます。財政の話になると地方債はだめだと断じる風潮が多々あるかと感じております。

「借金だ」「将来世代へのツケだ」「先送りだ」などとですね。一方、私と同じ御認識を持ち、二つの機能による必要性の議論もでございます。

市債の返済による負担、これは市の財政を悪化させないのだからかっていう、このような不安を抱いた市民の方からの質問に対して、市長はどのようにお答えになりますかね、お尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これから市債が必要になる局面はあると思います。負担が市の財政を悪化させないかという御質問だったと思いますが、これはバランスの取れた市債の運用であればいいと思いますが、偏って行ってバランスが取れなくなって過多になると、これは悪化させるに決まっています。これ市債でなくても個人の借り入れでも、会社の借り入れでも、それはもう当たり前のことだと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。
〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） バランス取れば不安はないんだという御答弁でした。確かにですね、この第四次遠野市健全財政5カ年計画にもこのような表現あります。「市債に関しては投資的経費の財源となる」「しかし、後年度負担が伴うことから歳入歳出シミュレーションにより、本市の財政規模に見合う借入上限額を定め、その額を超えない範囲内で毎年度予算編成を行うこととする」、もう既に借り入れの上限額きっちと定められているんだぞという事実もございしますので、その計画に基づいて必要な事業を行う際の財源の一つとして活用していただければと思います。

今後のこと、ちょっと中長期的な見通しについて市長の御認識を確認していきたいと思えます。

高齢化率の高まりから、社会保障関係費が増加していくことが当然のことながら皆さん御承知のとおり予測されています。新型コロナウイルス感染症予防対策経済対策の関連費も増えています。

構造的に依存財源の割合の高い本市にあつては、国、県に対し財源の拡充や地方一般財源総額の確保を求めていくほか、産業振興及び雇用の創出による自主財源の涵養など、あらゆる手段による財源確保に引き続き取り組んでいくことが求められております。その上でお伺いをいたします。財政調整基金残高の現状をどのように考え、財源確保に向けどのように取り組んでいくのか、中長期的な財政の見通しについて、

長期までいかななくても中期的で結構です。中期的な財政の見通しについて、市長の御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。
〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 私が今一番検証をしたいと思っていることは、このまま行くと減り続けますよと。不安不安と言いますけれども、安心させてくれと言いますけれども、安心するには安心するための材料が必要です。状況が必要です。不安なこともあります。これは共有しましょう、そして重要なことは「なぜこのまま行くと減り続けますよ」と言っているかということなんです。この今を改善しなければ中期も長期も行かないんです。今から中期長期をにらんで改善していかなければいけないことで、これは平成27年、平成30年、さまざまな時期でしっかりと検討しなければいけないことだと思っています。

また、これからの、3基金のあれもありましたね、これはつまり減っていきますよということが重要なポイントなんです。この金額ですよ、18億ですよ、これで18億、19億、18億、17億、20億っていうふうになっているのであれば、これは不安はないと言えるでしょう今のところ。これが減っていくということは、つまり止めなければいけないってことです。その状況にありますということですね状況については。

それと自主財源、市税にあつては、それこそ少子高齢化、人口減少の中で減っていくでしょう。交付金も同様です。ですから、財源の確保というのはこれから行政であろうともさまざまな資産を活用したり、事業の開発や促進を求めて市内の経済を発展させて収税できる、もしくは収益を上げられるような形にしていかなければならないというふうに考えております。

その中にふるさと納税の強化、そのためにはさまざまなコンテンツ、要するに商品、返礼品、これ品物でなくても例えば、子育てに関するサポートでもいろいろあると思います。そういうものを開発して、発信をしていかなければ

いけないと。そして遠野市の財政確保に努めていこうというふうに考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 財源の確保、これもですね、市長御答弁したとおりですね遠野市健全財政5カ年計画にもう既に載っているところでございます。

市税の確保、額って言うよりも、これ市税の所は収納率のアップを図っているようですし、受益者負担の適正化、それからごみ処理手数料の有料化。この四つ目にふるさと納税の強化。五つ目、公営住宅跡地利用の検討。その他として、遊休地の積極的な貸付、売却、市有林立木の計画的な売却、学習講座等に係る受講料の見直しと、さまざまな財源確保について計画なされている。市長としてね、何かやっぱりこういった問題意識を持ってるようですから、この計画、五つなり六つなり示されていますけど、それ以上にね何か取り組んでいきたいなって思いあるんでしょう。僕としてはね、ネーミングライツ、ぜひ考えていただきたいと思うんですが、そのほか市長としてこの計画の目標で終わらずに、目標をさらに上回りたいという思いもあると思うんですけど、何か、今の段階で結構です。制度設計に当たっていろいろ難しいところあると思うんですが、市長のお考えを伺いたしたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） さまざまこの数年間「遠野市こうすればいいな、ああすればいいな」と考えてきました。計画の話もありましたけども、だいたい計画というのは、問題意識、課題が共通していれば同じようなことが出てきます。当然、遠野市も私が市長になる前から、そういうことが必要だということはあるでしょう。

ただ、私が考えるのは計画を書いただけではだめで、しっかりと実行しなければいけない。そして、その進捗を確認して修正すべきところは修正しなければいけない。こういうことです。

市長としての舵取りというのは、そういうことだと思います。アクションを起こす、それを確認していく。

ネーミングっていうのもいろんな所でやっていますね。これも一つ着眼していくところでしょう。今の世の中は、昔は発想の転換とかいろいろありましたけども、いろんなものが世の中にあります。

ですから発想の転換が必要なんです。発想というよりは着眼、いろいろな今のネーミングもそうですね、着眼していく世の中にあること、成功していること、これに着眼して行って、それを応用していく。それを遠野流に応用して行ってさまざまな展開を図っていく。この努力をしなければいけないというふうに思います。

さまざまありますけれども、私これからのいろいろ提案していきます。今回細かいことを提案していく予定ではないので、お米選手権というのも昨日お話ししましたね。そういうさまざまな取り組みがあるということです。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 財源の確保策にお米選手権というのが直接的につながるというか、ぐるっと回って収入が所得税になるっていう意味合いですよ。

とりあえず僕が訴えたいのはですね、歳出の抑制ばかり念頭に置いてしまうと、行政の硬直化招きかねないんじゃないかなという心配があってですね、必要な市民サービス当然ございますし、遠野らしさの構築っていうのも市長おっしゃるように他市町村との差別化、必要だと思います。そして未来に何を残すのか、そういった政策も大事だと思います。都度ね、議論を通じながら確認をさせていただければと思います。

次に、介護専門学校の創立についてお尋ねをいたします。専門学校は大学に次ぐ規模の学生を抱える教育機関であると同時に、職業実践的な教育を提供し、産業界からの要請に応える社会に欠かせぬ存在です。現に専門学校は高い

就職率を確保しているといわれています。しかしながら専門学校は大学などに比べ、その法的な基盤についての情報が十分行き渡っておらず、法的に見てどのような存在なのかあまり知られていません。専門学校は学校教育法上いわゆる1条校ではないものの、専門課程を置く専修学校として位置付けがされており、学校法人外の私人によっても設立できる教育施設とされています。

創立という言葉、また言葉じゃないんだよって市長から言われそうですが、単語が気にかかってました。

市長は、介護専門学校の創立を公約に掲げておりました。でも昨日の佐々木敦緒議員の質問に対する御答弁では、選挙中に市長がこう訴えてきた内容とは、多少異なるような言い回しになったかなと感じております。

遠野市が介護専門学校の設置者になるんじゃないか。多くの方はそのように受けとめていたと思いますが、創立という言葉を使っていたからです。真意は御答弁頂いた内容は、誘致をしていきたいんだということでした。

遠野に学校を新たに設立してくれる法人のあてがあるのかなど。今度は次の疑問が湧いてきたところなんです、遠野に介護専門学校を誘致する必要性の根拠とその具体策について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 誘致する必要性があるのか、ないかっていう議論をしますか。

介護の人材は不足している、これ事実です。遠野に専門学校があった方がいいという市民の声は、専門学校でも大学でも短大でも、これ同じようにちょっと考えていただいて、上位の学校があった方がいいという議論は、市民の中でもされています。よく声を聞きます。それはなぜかという、例えば昨日萩野議員の話の中で、外国人材の活用ということもありました。外国人材を活用するということは日本の方を雇用するよりお金がかかるんです、実は。だから

皆さん日本の方、近くの方を雇用しようと努力してるわけですが、それでも難しいから外国から人材来ていただくか。こういうことになるわけです。

その人材難しい、例えば居酒屋さん例に挙げます。外国人材を受け入れるという費用はかけられない。しかし高校生のアルバイトは難しい。そうすると専門学校生や大学生がそばにいてくれば、アルバイトも受け入れやすい。これも一つ。全てがこの目的ということではないですよ、もうちょっと柔軟に考えていただいて、あれもこれもあって、さまざまな効果が得られるからというふうに解釈をしていただきたいんですけども。

そして、介護の学生はインターン、このことも必要な戦略になってきます。もちろんアパートや宿舎といったものの経営も出てきます。もしですよ、これがもし、昨日、敦緒議員からどこに建てるんだというお話しがありました。仮に宮守に建てます。仮にですよ。そしたら駅を使って通う生徒も増えます。駅前に居酒屋ができるかもしれません。そういう地域と密接した重要な効果もあるかもしれません。

私は根拠という狭い考え方ではなくて、これによってさまざまな波及効果、経済の効果、人の効果が生まれる、そういうところからこういったものを考え進めていきたい。

そして、理解というのは非常に難しいというのは先ほどもお話ししたんですけども、遠野市が作りますよと、私は市民の方々と話をしながら、また議会で議論をしながらそういう大事なことは決めていきます。私の説明も足りなかったかもしれませんが、その1項目の所で、細々長くは書けません。ですから、これは受け取る側の理解ということになるわけですけども、理解の仕方というのはいろいろあって、好意的に柔軟に理解するという解釈がある。好意的っていうことから考えると、反対に悪意的、敵対的、反対的とかいろいろ字が出てくると思います。これを遠野の将来に向けてしっかりと柔軟に好意的に解釈していく必要はあるでしょ

うと。解釈をしっかりとしないっていうのは、ねじ曲げていってしまう。これはよく曲解、その気持ちにつられてそっちのほうの解釈をしていく、これ一般的な話を申し上げております。これが、曲解といいます。そういうふうにしていったって進めたくないというのが、私の気持ちでありますから、ここははっきりと申し上げますが、選挙公約の中で遠野市が創立するというような話はしておりません。創立の形を質問していただければ、これは民間で考えています。そして民間というのは一つの企業ということもありますが、例えば先にどこかに介護施設ができた。その介護施設に付随してそういうものを作っていく、それに付随して子育て住宅ができていく、保育園ができていくと、そういうふうな私はその発展の仕方を考えていきます。

その誘導やアドバイス、その発想を民間企業にお伝えするもしくは何社かでやる場合もあるでしょう。形態はいろいろあると思いますが、形態を工夫しながら発信していくというのが、これからの考え方です。

ですから、遠野の将来にとっていい考え方であるか、もしくは、「いや、そんな大したよくないな」と「いらぬな、こんな考え方は」こういう意見もあってもいいと思います。さまざまその辺は議論していいことだと思います。

私の考えはそういう考えでございました。

○議長（浅沼幸雄君） 午後1時まで休憩いたします。

午後0時04分 休憩

午後1時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。7番菊池美也君の一般質問からです。7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 午前中の質問で、私の方から市長に投げかけた内容は、介護の専門学校、遠野になぜ必要だと考えてられるのかという質問に対して、市長から御答弁いただいたの

は、「介護に携わる方、不足しているからだよ」と「その不足を解決するための解決策なんだ」と。

さらには、人材不足を解決するだけじゃなくて、広がりのある波及効果が期待できるからですという市長の思いを伺いました。

僕も介護に携わる方々が不足している、その現状は認識しております。市長と意を共にするようですね、介護は遠野にとってはなくてはならない社会的に必要な大切な分野です。だから人材を確保していかなきゃいけないんだと、策を練っていかなければいけない。その思い一緒です。

改めてちょっと別な展開で質問させていただきたいんですが、どうしてね人材が不足しがちなのか、不足しているのか、何か課題があるからだと思うんですね。

介護職に限らずですね、あらゆる業界の産業の各事業所、各種法人がさまざまな考え方の中で、優秀な人材を確保するための手段を工夫しています。

就業する側としては、その業界の将来性であるとか組織の理念、風土、雰囲気であるとか、もちろん仕事のやりがい、そして福利厚生も選ぶ上で大切な要素となります。

質問をさせて下さい。介護報酬と受益者負担のバランスであるとか、要介護者、要支援者の遠野の将来推計、そして介護職員の現在の処遇、介護を取り巻く状況について市長はどのようにお考えでしょうか。どのような御認識をお持ちでしょうか。お伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 午前中に引き続き、よろしく申し上げます。

私の父も昨年8月に施設で亡くなりました。そのときにできるだけ市内の施設に入れたいと、親父もそういうふうを考えていましたし、そうだったんですけども、実際にはかなわず花巻市で亡くなったという現実がありました。介護施設が結構閉まっていたっていうこともあって、

凄くその現状が気になって、いろいろ聞いたり勉強しようと思っっている方々の話を聞いてきました。その現状をしっかりと知らないところに対する対策も取れないなというところから、介護人材の確保であるとか施設の数に関してのこととか考えなければいけないなというふうになったんですが、やっぱり介護に係る現状っていうものは厳しいってのはもう大きなことなんですけれども、保険制度とかさまざまあります。バランスとか受益者とか介護報酬っていうこともありました。

これは保険制度っていうものがあって、40歳以上、介護保険料を納めていただいて、60歳以上の方を第一号被保険者と呼ぶと。

この、基準月額保険料っていうのは五段階になってるんですが、5,425円、これは岩手県内で下から五番目に低いうまざ現実。このことも調査しました。

そして、昨年度の決算数値は歳出総額で、3億2,543万円を保険料費用として支出しています。大きな額ですね。

こういう実態があって、そのうち6億5,137万円を介護保険料として被保険者の皆様から納めていただいて、残りは国、県、市の負担というふうになっているという内訳があります。かなり遠野市も頑張っていること、力を入れているということも私は分かりました。

現在の65歳以上の被保険者の数は10,466人、要介護要支援認定者数が2,111人というのが現在の状況であります。団塊の世代と言われます。

そして、さらに令和22年、団塊ジュニアの世代、このピークがやってきます。65歳から70歳となる時期にそのピークがやってくる、そういうふうに使われています。

前の質問でも答弁していますが、市内の介護従事者の十分にならない原因の一つには、給与またはその待遇もあります。

遠野市内の人材確保、これについては今美也議員の方も質問の中で話をしていました。介護に限らず遠野市内の報酬とかそういう現実もあると。この辺のこともしっかりと向き合っ

ていかなければならないわけですが、施設の運営ということも同時にあります。

私たちは両方の面でしっかりとサポートしていかなければいけないってことはこの調査をしてよく分かりました。

その待遇改善、その他の方法についてこれから、介護職に従事している人、施設の方、そして関係各課と協議をして、いろいろ提案をしていきたい。当然皆様にもお諮りしていくわけです。

介護職員が安定して生活できるということは、もしかするとその方も介護してるかもしれない。子育てでも大変かもしれない。それぞれの方の事情はありますが、大きくはこの2点を強化していかないといけない。介護に従事する人のサポート、これがしっかりいかないと介護してもらうということが難しくなるというふうに使っていますので、各関係機関、関係者に協力の依頼をしなければならないと考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 7番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 課題、市長がね御認識なさってる課題について、確認をいたしました。

まず処遇、ここはやっぱり改善していかなければいけない部分じゃないかということでしたね。

人材の確保という視点でいくと、資格を取ってもらう、そのサポートと、資格を取った方が離職しないようなサポートと、二通りが必要だと思っんですね。

私も介護専門学校の創立って聞いてですね、最初はねいい政策だなと思っました、本当に正直。専門学校なので1学年20人程度いるんだろうと、2学年で40人、お昼食べるんだろうとか、アパート借りる学生さんもいるかも。自宅から通えるようになれば、市内の親御さんの経済的な負担軽減できるなど。校舎、教室、空きスペースの有効な活用策になるかもと。

しかし、いろいろ調べれば調べるほど、考えれば考えるほど悩ましくなっってきてですね、

やっぱり法律っていう制約があって、大変厳しいことだなと認識せざるを得ないんですね。今今のその人材流出を防ぐためには、公約に掲げたから、載ったから、載ってないからってやらないわけじゃないと思うんですね。載ってない部分もやっぱり課題として認識してますから、そういった取り組みも当然なさっていくんだと考えます。

ただ現在ですね、県内に介護福祉士養成の学科、大学、専門学校すでに6校あるんですね。介護福祉士実務者養成施設についても、高校4校含めて10施設が存在します。

もう十分足りてるんじゃないかなと資格を取得するような施設、学びの場は、ちょっとね資格取得するために学びの場が足りていないということではないなと思いました。

じゃあどうしていったらいいんだらうってことなんですけど、就学の経済的な負担軽減策として、ぜひ市には厚生労働省の介護福祉士就学資金等貸付事業、こういったものがあるようです。ぜひ広く周知をしていただければと思いますし、質問で御答弁いただいた課題の認識、その現状の課題解決をぜひ優先していただいて、離職してしまう方を防いでもらいたいんですね。

11月19日に「コロナ克服新時代開拓のための経済対策」が閣議決定されました。そして、政府決定なされ、昨日召集の臨時国会にて審議されているところであります。

当然のことながら鈴木俊一財務大臣、強く関わっています。ちょっとご紹介します。

看護、介護、保育、幼児教育など新型コロナウイルス感染症への対応と少子高齢化への対応が重なる最前線において働く方々の収入の引き上げを含め、全ての職員を対象に公的価格のあり方を抜本的に見直す民間部門における春闘に向けた賃上げの議論に先んじて、保育士と幼稚園教諭、介護障害福祉職員を対象に賃上げ効果が継続される取り組みを行うことを前提として、収入を3パーセント程度（月額9,000円）引き上げるための措置を、来年2月から前倒し

で実施をする。この部分の予算は2,600億円だそうです。

例えば市として、この賃上げにね独自にかさ上げをするとか、これ公平性とかいろいろ議論があって、制度設計大変かもしれませんが、そういった何かしらね処遇の改善に取り組んでもらいたいなと思います。

有資格者がね離職してしまう、あるいは市外の施設で就職してしまう。別な業界、産業に従事してしまう。この流出を防ぐための確保策が、まずは望まれることでありますし、市長も考えていらっしゃると思います。

これまで、さまざま担当課では策を練ってね取り組んできたんだと思うんですが、現状今の状況で人材が不足しています。

職業選択の自由っていうのもありつつなんですが、この介護職への誘導。どのように政策的に図っていききたいなと、何が必要かなと思いますか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほど私、団塊の世代という言葉の間違っております。訂正させていただきます。

先ほどと答えが重なる部分もあります。やはりその現状を見て、何をどういうふうに変えていくかということの策が必要だと思います。一番わかりやすいのは、給料体系を変える、もしくは先ほど申しあげましたように、介護現場で働く人をサポートするシステム、これが必要だと考えています。

ただし、これは遠野市だけでできることじゃないので、各施設も関係してきます。これについては施設関係者含めて相談しながら前に進むということが必要だと思います。

それと、人材確保について何が先かということではなくて、この介護専門学校の創立を待っているわけにはいかないのは、もう当然のことですから、何年かかるかわからない。

それと、少なくとも段階があって、あるプロセスを踏まなければ専門学校になっていかな

いわけですから、それまでの間、何もしないと
いうことではないということです。即効性のある
こと、これは必要です。流出しないこと、両
方必要です。

チャンネルを増やしていかなければいけな
い、県内に施設が足りてあるのであれば、じゃ
あ学校はいらない。そこで、人を引っ張ればい
い、こういう理論にはやはり少しならないだろ
う。なぜならば現状が違うわけですから。

そこで遠野の魅力、職場の魅力、そういう
ものを出していかなければいけない。政府が今
回ペースを上げる、これは非常にいいことだ
と思います。私的にはもう本当によかったとい
うように思っています。

そして、さらに遠野市が各施設と積極的に
相談をして、お互いに何をできるか、どうい
うふうな教育協力体制ができるか、これをし
っかりともう一度話しをしていく。そして意
見を聞いてできる策は取っていく、ここを
やらなければいけないと思っています。

まずはいろいろ話をして、働く人・施設
両方の現状をもっと聞いてみたい、そうい
うふうを考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 挙手してください。7
番菊池美也君。

〔7番菊池美也君登壇〕

○7番（菊池美也君） 失礼しました。

この人材確保、介護に携わる方々の課題
ってというのは、遠野だけが抱えてる問題
ではなくて、じゃあ遠野だけ処遇改善を
して、ほかの市町村から来てもらっちゃ
うと、今度はそっちの来てもらっちゃ
ったほうの市町村も困ってしまう、
本当悩ましいところがあるかと思
います。ぜひその辺のね調整も、
新市長には取り組んでもらえ
ればと思います。ぜひ県内って
いう視点です。ね課題解決に
向け、県のほうに申し入れ
するとかそういった部分も
必要になろうかと思
います。質問じゃないので
結構です。

これで終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、
暫時休憩いたします。

午後1時18分 休憩

午後1時19分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議
を再開いたします。

次に進みます。6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 公明党の小林立栄で
ございます。

多田市長、御就任まことに
おめでとうございます。

就任以前ではございますが、
多田市長からはネパールの子
どもたちに遠野の子どもたち
からピアノをプレゼントする
ボランティア活動、そういった
ものにもお声掛けいただき
て参加させていただいたり、
国内外で御活躍をされている
識者の方々が遠野にいらっ
しゃったときに、声をかけ
ていただいている。いろいろ
懇談する機会をいただい
たりと、私自身視野が広が
りましたし、多くの気づき
もありまして、成長する機
会をいただけたことは今
でも本当に感謝をしてお
ります。

市民福祉の向上のために
是々非々でこれからも活
動してまいりますので、
何とぞよろしくお願
いをいたします。

それでは通告に従いま
して、一問一答で質
問してまいります。

今こそ感染症の脅威から
市民の命と生活を守る
とともに、デジタル化や
グリーン化、地方への
分散化の流れのなか、
成長と活力、好循環
を生み出し、コロナ
以前よりも便利で
豊かな地域社会を
築いていかなければ
なりません。併せて、
誰一人取り残さない
持続可能な未来を
目指して、子ども
や若者に対して積
極的に投資をして
いくときでござ
います。

大項目1点目、便利で
豊かな地域社会の
構築に向けて、質
問してまいります。

デジタル社会の構築は、
日常生活での利便
性の向上、持続可
能な自治体運営へ
のモデルチェンジ、
地域課題の克服、
そして感染症対策
として必要不可欠
な取組であります。

第4次遠野市経営改革大綱では「デジタル技術の活用による業務改善」「ICTを活用した行政サービスの向上」について年度別の実行計画が示されております。また遠野市総合計画、遠野みらい創造デザインの中では「ICTによるネットワークづくり」として未来の姿が示されております。年度別実行計画の更なる前倒しを含め、積極的に推進をしていくべきと考えます。

市民福祉の向上と市民生活の豊かさ、地域の活性化が実感できるデジタル化を戦略的に進めて行く必要があります。

デジタル化の推進について、まずは市長のご認識をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ピアニカ、あれはネパールの二つの学校に全部行き渡りまして、ちょうどここにいらっしゃいます荒川議員と一緒に寄贈に行ってくれた。そのあとはもうどんどん音楽が進んでいって、同時に学力も上がって、周辺60校の中で私たちがサポートした小学校は、なんと学力1番になりました。

そのほか、小学校は3校、そのほかにもコミュニティセンターなどを建ててきました。市民の生活も向上した。本当に皆さんのおかげで、遠野の皆さんの本当にサポートはすごかったなって、ここでもそういうふう感じておりました。ありがとうございました。

今の御質問のデジタル化、これはもうこの時代から考えるともう当然やらなければいけないことなんですけれども、遠野市でもちょっと私も調べていただきました。

国が12月に自治体デジタルデジタルトランスフォーメーションの推進計画を作成して、その後遠野市でも令和3年から7年度の第2次遠野市総合計画後期基本計画の中で、地域課題解決のためにも行政手続のオンライン申請などを進めていこうかという取り組みを始めているところなんです。

さらには、担当を配置して行政サービスの向上やデジタルトランスフォーメーション推進

本部会議を立ち上げていると。具体的には自治体情報システムの標準化、共通化、行政手続のオンライン化を順次進めていくということになっています。

それこそ私たち世代も、そのデジタルの部分、通信のシステムの部分については、だいぶ苦手な方が多いということですから、これからが大事なときだと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 経営改革大綱にある、ICTデジタル技術に関する項目についても、概ね計画どおりスケジュールを見ても、現在の取り組みと比べてみても、やはり進んでいるなと感じております。

今国のほうでもデジタル化強力に後押ししておりますので、やはり進められるときにはしっかり進めていくチャンスなのかなと捉えての質問でございます。

このICTデジタル化っていうものは、このICT技術をどのように活用していくのかっていうところが、大変大事な視点だと思います。これ一つの例でございます。

茨城県の土浦市では、デジタル技術を使って、支所や地区公民館など公共施設計17カ所と、市役所本庁舎内の各課をですね、窓口をリモートでつないでおります「つちうらリモートコンシェルジュ」という事業で取り組んでいるということでございます。遠野市で例えれば、本庁舎などに足を運ばなくても、最寄りの地区センターからリモート、画面を通してですね、市民と担当職員がお互いの顔を見ながら、各種申請手続き、生活の困りごとに関する相談対応を行えるという取り組みでございます。

市民の利便性の向上と、身近な市役所としての住民と行政の距離を縮める効果も見込めることとでございます。

これからの地域づくりとして、私は地区センターとその周辺に、日常生活に必要な機能やサービスを集約して利便性を高めていくと。地域住民の方が自然と集い合えるそういった拠点

化の再構築っていうのが必要だと考えております。

その上で地区センター周辺の拠点化を図りつつ、地区センターと各集落・各世帯を結ぶ「交通」と「情報」しっかりネットワークを張っていくと。これは議員になってからずっと議論さしてはいただいているところではございますが、やはり市民生活の利便性を高めるためにこういったデジタル技術を地域づくりに活用していくっていう視点はこれから大変重要になると思います。

その点につきましては、多田市長どのようなご認識をお持ちなのかお示してください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 遠野市でも既にライセンスを取得してしまっていて、ズームで会議ができるようになっております。市外とももちろん可能で、先日は医療関係者と会議をしました。また、地区センターともそういう形でつながって会議をしたりすることもできます。

私も今のところ予定では20日辺りなんですけども、宮守支所に勤務する予定でおります。そのときも月に一回ないしは二回は宮守支所にも行って、いろいろお手伝いしたいという気持ちがありますので、そういう形でやっていきたいと思ってるんですが、そのときにもさまざまな情報交換には、そのデジタルのその通信システム、遠野市が持っているシステムを使ってやってみたいと思っています。

11の地区にそれぞれ配置されているので、これからもそういう活用は活発にしていきたいと思っております。

また、事務等に関してもまだいろいろ検討しているんですが、さまざまハードルもありまして、これから順次進めていくということです。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 今後、遠野テレビのネット環境のほうもますます充実してまいりますので、こういったタブレットとか利用してです

ね、職員が持って歩くっていうのも、そういう意味では本当にいろんなことの可能性が本当に広がってきているんだっていうのは実感もしておりますので、ぜひそういったところをそれぞれの地域の発展とですね住民の福祉のほうにしっかり活用していただきたいなと願っているところでございます。

今定例会の一般質問の中でも、公共施設のあり方についてさまざま議論がなされました。ちょっと私も公共施設とこのICTについて、ちょっと1点質問させていただきます。

公共施設は当然市民福祉の向上、多様化する市民ニーズにお応えする上で、大きな役割を果たしております。今後は議論でもありましたが、やはり、よりよい行政サービスを提供しつつ将来に負担を先送りさせないために、やはり公共施設等総合管理計画に基づく施設の維持管理であったり整備更新、いろいろ統廃合も含めてですね、こういった取り組みが重要になってまいります。

ただですね、私併せて今ある既存施設の利用需要、利用者ですね、これまだまだ増やせるんじゃないかなっていうのがちょっと、すみませんこれデータとして取れてるわけじゃないので、肌実感として感じております。取り組み方次第でやはりいろいろ利用者を増やせるんじゃないかなっていう感覚でおります。

これ、みやもりホールの例なんですけど、大変音が美しいすばらしいホールです。親子ルームもありまして、子どもと一緒に遊びながらですね芸術を楽しむこともできると。私も以前別な用事で使ったんですが、ちょっとあの当時よりは今改善していると思っておりますが、なかなか大変だったんです。予約の確認を向こうまで行ってチェックして、日程調整して正式に申し込みをして、支払いは後だとか、行ったり来たりしたちょっと覚えがございます。若干改善はね、予約をネットで見れるようになったりとかしているのは、もう感じておりますが、こういった体育施設、文化施設、各地区センターや生涯学習スポーツ施設など、利用するときにネットで

予約ができるシステムの導入であったり、またキャッシュレス決済の導入、こういったICTをうまく活用して利用促進を図ってはいかかなものでしょうか。

公共施設の利用促進へデジタル技術を活用することについての市長の御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 当然、デジタル化の中にはそういう機能っていうのは基本的に入ってくると思います。

現在のところは、キャッシュレス決済については水道料金、税金、下水道料金になってます。これ結構手数料もかかるんですが、その他のキャッシュレス決済の部分について、そして公共施設の利用については、検討を進めなければいけないところだということを先日関係課からも言われております。どんどん時代が変わるところに対応していかなければいけない。

管理者制度も公共施設についてはやっておりますので、その決済のシステムについても計画的に進めていかなければいけないというところにあります。

○議長（浅沼幸雄君） 六番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 指定管理の問題も含めてですが、あと、なにぶんこういうデジタル化は結構予算がかかる、財源が必要になってくるというちょっと悩ましい問題もございます。費用対効果の面とかですわねあると思いますが、ただやっぱりこの時代の流れにしっかりうまく乗せつつそこはやはり知恵をお互い出し合っていくしかないのかなと感じておりますが、いずれ市民の利便性を高めながら公共施設の活性化、これにもやはり図って行った上での統廃合とか見直しであったり、そういったところに進んでいくことが、やはり市民の皆さんの理解も得ていけるのではないかなと感じております。

このデジタル化っていうものはですね、こうやはり進める上で、本人確認っていうのは大

変重要になってまいります。その本人確認のための重要なツールであります「マイナンバーカード」この普及促進がやはり必要不可欠であると考えております。

国のほうでは健康保険証としての利用、運転免許証としての一体化。あとですね、この新型コロナウイルスの接種証明書、ワクチンサポートこれの取得にもいろいろ利用できるように、次々と利便性の向上に取り組んでおります。新たなマイナポイント事業による普及の後押しにも取り組む意向で、補正予算のほうにも計上されているようでございます。

これから短期間にマイナンバーカードの申請希望者の急増が想定されますが、夜間や休日での対応であったり、各地区センターや福祉施設、商業施設等への出張など、マイナンバーカードの申請サポートを充実させるべきではないでしょうか。マイナンバーカードの普及についてのお考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これは重要事項として本市でも位置づけられております。

現在のところ10月末時点でカードの交付率、これは26.5パーセントであります。県内14市中、13番目の交付率となっております。わりと低い。この普及については、皆様にマイナンバーカードがあることによって、便利なこと、これから今はないけれどもこれから、付け加えて便利になっていくこと、それらもお知らせしなければいけないと思います。健康保険のこと運転免許のことも今議員おっしゃったようにそのとおりです。これらを普及に力を入れるということは、今後必要だと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） どうしてもマイナンバーカードっていうのは、私も今は持っておりますが、最初はやはり個人情報の心配とかですわね、本当に持っても役に立つのかなっていう思いがあったのをやっぱり覚えておりますので、

やはりそういった理解を深めていく取り組みもぜひ進めていただきたいと思います。

その上でですね、マイナンバーカードの普及率が高い自治体をちょっといろいろ調べてみました。そうするとですね、自治体独自でポイントや商品券を付与して、普及の後押しに取り組んでおります。国でやっておりますマイナポイント事業、その自治体版というイメージでよろしいと思います。

マイナンバーカード取得へのインセンティブ効果と、消費喚起による経済効果これがやはり見込めるとのことでございます。

市内での飲食、買物、公共交通に利用できる地域振興券、遠野で言えばすずらん振興券とか、あとスキップポイントになろうかと思いますが、そういったものをマイナンバーカード取得に合わせて付与していく。それがまた地域の消費につながっていく、それがインセンティブとしてまた後押しにもなっていくという遠野版マイナポイント事業に、こういったものにも挑戦してみたいのではないかなと考えますが、改めてもう一度マイナンバーカードの普及についての取り組みについての御見解を再度お伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これ確かに普及するために工夫が必要ですね。このあいだも担当課とそういう話しになりまして、「いろんな方法があるね」と。さまざま提案もいただきたいと、今度一緒に考えていただく時間を用意して、普及のためにどういうふうに取り組むか、こういうプラン出しをするのも一つかなと考えています。いろんな情報、皆さんお持ちだと思うので、それを合わせて遠野型っていうことは、一つ提案として有効ではないかと思えます。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） ありがとうございます。私のほうでもいろいろ調査したこととか、国の動向であるとか、そういったものはしっかり情

報共有しながら進めていきたいと考えております。

デジタル化を進める上で、やはりもう1点気をつけなきゃいけないところは、スマホなど情報通信機器の扱いであったり、デジタル技術の活用に不慣れな方、私もそんなに得意ってわけではないんですが、やはりこの誰も取り残さないっていうことが大変重要だと思います。全ての市民の皆様が恩恵を受けるデジタル化が重要であります。しかし、スマホの使い方を教えてくれる、まだなかなか相談できる場所が身近にないという実情がございます。

東京都羽村市では、シルバー人材センターさんが主催してスマホ講習会を開催しております。講習会の講師は、同シルバー人材センターの会員さんが総務省の研修を受けて、デジタル活用支援員として講師も務めているそうです。

本市でも地元のICT事業者やシルバー人材センターさんなどとですね、連携して講習会を積極的に開催していく必要があると考えます。講習会と併せてマイナンバーカードの取得サポートも同時に行っていけば、より効果的ではないでしょうか。御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） そのとおりですね。併せてさまざまなことを発信していくことが必要です。遠野テレビとも強い連携を取って、各地区センター、今は青笹地区センターと上郷地区センターで講習会が実施されています。各町でこういう動きをするということと、もう一つは、先日部課長会議をそれぞれペーパーレスでやりました。ペーパーレスでやる実験も兼ねているんですけども、やっぱりこれ効率的だと思います。

議会でもおそらくペーパーレスっていうことも議題になったかと思えます。これからもまたなっていくと思います。時代に即して講習等も進めなければいけないと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 社協だよりなどで、青笹地区センターで開催されているということも聞いておりましたし、こういったこの講習会っていうのは、それに対しての国からの応援もあるようですので、そういったこともうまく活用しながらの民間企業もうまく巻き込みながらですね、進めていただけたらなと思っております。

このデジタル化についてさらにもう少し議論させていただきたいんですが、このデジタル化を考える上で、改めてこの人間力とか人間性というもの非常に大事になると感じております。デジタル化といっても使うのも恩恵を受けるのも、結局は人間であります。相手を思いやる力、想像力、人と人をつなげる力、知性や教養などそういったものが求められるのではないのでしょうか。

体に栄養が必要なように、心には芸術や文化という栄養が必要であり、人間力や人間性を育む上でとても大事なものであります。

しかし芸術文化活動への参加者の減少や高齢化、後継者不足、コロナ禍の影響など課題や不安な要素を抱えているのが現状であります。

遠野市の文化芸術の基本理念となる芸術振興条例の策定を含め、よりいっそう芸術振興に取り組む必要もあると考えます。芸術の重要性と芸術振興について市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 小林議員はファンタジーでも活躍されていますので、役者としても、またスタッフとしても活躍されていますので、楽しみに見ておりました。今年もまた楽しみにしています。誇るべき芸術文化だと私は思っています。

このコロナ禍で「人と人が近づくことができるだけ避けてください」と言われる状況ではありますが、人と人の心はもっともってそれによって遠くなるのではなくて、近づけていかなければいけないと思います。

芸術文化の発信方法もさまざまな方法ができるようになっていきます。遠野の市民センターを核としたバレエスタジオや遠野ファンタジー50周年なんです今年。それこそ私、萩野議員が1年生で入ったときには萩野議員が担当者してましたねファンタジーの。私は小道具係やりました。非常になつかしいです。そういうふうな育ってきた私たちですから、当然力を入れなければいけないと思っています。

その人材、これ若者の参加とかさまざまなことがあると思います。その遠野のそういう文化活動は楽しいんだよってことをもっともっとお知らせしていかなければならないなと思っています。

その先ほどおっしゃってました文化芸術振興条例や基本方針等の策定については、県内の多市町村ほかのことも参考にしながらですね取り組んでいかなければいけない、皆さんとお話ししていかなければいけないと考えています。

遠野は「芸術文化のまち」だということは間違いありませんので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 「芸術文化のまち」と言っていただきまして大変励みになります。ありがとうございます。

なかなかあまりこう芸術とか文化っていうのは行政が入りにくい分野でもあると思うんですね、個人個人の表現とかそういったところありますので。ただ、できるところは応援してほしいというこの何とも、質問していても具体的にじゃあ何ができるのかなというのは、こう悩みながらの正直、質問でございました。ぜひ芸術文化の魅力を発信するという形で、盛り上げていくことが大事かなと今感じております。この文化芸術につきまして、この文化芸術の位置付けを明確にして文化の薫り高い潤いのある市民生活を実現するべくですね、文化芸術の振興に取り組んでいる自治体、本市、他にもですね全国に数多くございます。

芸術文化を軸にした取り組みの波及効果、これは観光や経済、地域づくり等にも大きな力を発揮しております。

遠野市では歴史文化基本構想を策定し、文化財とその周辺環境の総合的な保存活用に取り組んでいると承知をしております。歴史や文化を観光振興や地域活性化につなげて、そこから生み出された経済効果、あとは賑わい、人材育成ですね。そういったものをですね、さらなる文化の保存活用など文化の振興につなげていく持続可能な好循環を生み出すことが重要だと考えます。このこういった取り組みを文化観光というそうです。

この文化観光について、市長の御認識、御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） どういうふうには行政が携わるかということ、なかなか難しいということがありますが、まずは遠野市長も遠野市議会議員の皆様も文化振興応援団と、最強の応援団という位置付けからスタートしたいと思っております。

遠野市は、さまざま文化観光ってことは進めてきておりました。この文化観光推進法が施行される前からずっと力を入れてきたことだと思います。そして、31年ですか、平成31年に歴史文化基本構想というのが策定された。遠野物語や伝承園はじめ山口集落など本当に素晴らしい環境が最強と言っていい環境が遠野にはあると思います。

これら、そのほかに遠野遺産の認定制度、みんなで築くふるさと遠野推進事業補助金、これも活用していただいて、市民協働、地域活性化を行っていただいていると。

昨今では千葉家の改修工事にも、私、ツアーですか、地元の方々がやっているツアー、これはですね、重文千葉家活用を考える会という会です。この方々が、茅葺屋根の、照井議員がそこに参加されて棟梁、参加されてるんですけど、茅葺屋根の下のベースの部分、その地

域の方々が編むんですね。その編んでいる編み方も、この何ていうものか分かりませんが、木をこうやりながらやってるんですね。あの広い面積の茅を編む。それも地域の人たちで。これすばらしいことだなと思って参加してきました。

最近、ドキ・土器館もイベントを展開したり、ちょうどこの間行こうと思ったときにお休みで行けなかったんですけども、呪術のイベントでございました。さまざまこれまでにない奥深いものが、まだまだ遠野にあるなという感じがしています。

それらをしっかりと観光にも結びつけていく。いっぱいある要素、コンテンツをしっかりと結びつけて一つのモデルを作っていくという動きがこれから重要になってくるし、力を入れなければいけないと思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 答弁の中でもございました、ドキ・土器館でいろいろ土偶ですかね、そういったものをおもしろおかしく、マスコミもうまく巻き込みながら情報発信をしていたり、呪術展とかですね遠野の文化課、博物館の取り組みというのはなかなか私は凄いこれは全国に誇れるなと思っております。と考えるのもですね、実はこう歴史や文化っていうのはどうしても難しい、堅苦しいイメージっていうのはこれどうしてもあります。

ただですね、この遠野の魅力をやはり知っていただくために、そのきっかけとしてやはり分かりやすいと、楽しそう、そういった感じることができる遊び心っていうのが僕は大変大切だと思っています。

遠野を遊び心、楽しそうだなと思って来てもらって、一度来てもらえばもう私は絶対沼にはまると思ってますので、遠野にしっかりとハマってもらって遠野ファンになっていただきたいなと思っておりますので、そういったきっかけづくりとしてですね、やはり漫画とかアニメ、ゲーム、小説や映画などのコンテンツ、こういったものをうまく活用して、遠野の魅力の発信、

聖地巡礼やロケ地としての地域活性化につなげていく取り組みも、やはり重要ではないかと考えております。

河童をはじめ妖怪の存在、恵まれた自然環境、歴史や文化はそういったコンテンツととても相性の良いものでございます。

遠野市としてコンテンツ産業、エンターテインメント関連企業等にも積極的にプロモーション活動を行って、連携・協力体制を図りつつ情報発信・地域活性化につなげていくことが必要ではないでしょうか。改めて市長の御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 意外とこの文化的なところと多田一彦が結びつかないように思っている方もいるかもしれませんが、結構これで文化的なところも好きなほうでございます。

そのいろんなコンテンツを組み合わせる業界ともエンターテインメント含めて組み合わせていくってこと、これからの時代とっても重要なことですね。なぜならば、遠野には凄い要素があるんです。材料があります。河童、もちろんこれすばらしい、遠野物語、それと妖怪もありますね。ちょっと前になります水木しげる先生が書いた本、これで遠野物語にもっと入った人、導入の部分で入った方、沢山いらっしやっただと思います。

これらをしっかりと使っていく。ふるさと村やこども本の森もあります。その周辺も活用しながらしっかりと使っていく。

例えば、境港という所がありまして、そこでは鬼太郎の像とかですね、いろんな石とかブロンズの置物がただあるんです。これだけで多くの人が見に来て、ゴールデンウィークには最多で20万人、1日っていう記録もあるそうです。私も行ってきました。何気なく置いてあるんですけど、なかなかいいんですね。そしてシャッター街もどんどん店を開けたそうです。市外から来てオープンする人もかなりいるということでした。

これを遠野でやったらどうだろうかってその時思いました。コンテンツは遠野のほうが多いなど、自然環境も、境港もいいですけど、遠野も。遠野世界一だと思ってますんで申し訳ありませんが他の市町村の方には。でも絶対世界一だというふうに考えています。

こういう取り組みもぜひ一度参考に見に行っていて、一緒にやっていきたいなど。

これ遠野市がお金を出さなくてもふるさと納税や、もしくは下に作った人の寄贈した人の名前を入れていいというネーミングっていう話もありました。そういうことを混ぜていくとできるなど。本の森から駅、それと中心市街地に点在していくようにすることも必要だなと思っています。

それとですね、その魅力発信をする仕方、これはデジタル化の所であるんですけども、このインパクトのある発信の仕方っていうことを考えなければいけないと思うんです。今もかなりの発信はしてますけども、いまいち全国的にインパクトが足りないのかなっていうふうに考えていますので、それこそ遠野市外の方やさまざまなその旅行関係者の方からも、そのインパクトの出し方っていうことについては、御意見をいただいた方がいいかなというふうに思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 本当に御答弁同感でございます。私も教育民生常任会で境港視察に行ってからですね、町を歩くあのわくわく感、私個人的に妖怪好きだというもあつたんですけど、鬼太郎が好きだというのがありましたが、それ以上にやはり歩いて楽しいんだなというのが本当感じるあのまちづくりでした。

ぜひですね、もう遠野は市長がおっしゃるとおり、さらにいろんな要素が多く過ぎるぐらいありますので、ぜひあとはその辺の仕組みづくりと、しっかりした情報発信だと思います。そこは私もこれからいろいろ調査したり、またアイデア出したりこういった形でいろいろ議

論していけたらいいなと思っております。今日のところはちょっとこのテーマについてはまた別な機会にまた議論させていただきたいと思っております。

大項目2点目に進みます。「若者の活躍を応援する地域社会に向けて」質問してまいります。

地域に子どもや若い世代の方がいる、住んでいるということは、もうそれだけで地域の暮らしを支える力になります。安定した社会の源となります。また未来を担うのは現在の子どもたち、若い世代の方々でありますので、持続可能な未来に向けて子ども、若い世代への支援に最優先で取り組んでいくべきであります。

まずは少子化対策についてお伺いをいたします。これについても昨日からもいろいろ議論もございますので、若干重複するところもあるかと思いますが御容赦ください。

少子化が進行するなかで、コロナ禍の影響も加わり出生率は低下をしております。そして出生数も過去最少を記録しました。また、教育や子育てなどに関する公的指数、公的に使っている財政、お金ですね、これは国内総生産GDPのわずか1.9%だそうです。世界の平均は経済協力開発機構加盟国の平均は2.1、平均で2.1ですので、当然もっと高い低いがあります。その平均にも日本は及んでいないという、これが実情でございます。

子どもや若い世代が必要なときに必要な支援を受けることができるように、出会い、結婚、妊娠、出産、育児、子育て、教育、そして若い世代全般への切れ目ない支援が求められております。

遠野市では第2次遠野わらすっこプラン策定して取り組みを進めております。この第2次遠野わらすっこプランについて社会情勢の変化やニーズに応じて事業の追加拡充に組みながらきめ細かい切れ目のない少子化対策を推進するべきと考えております。

昨日からも同様の御答弁があったと思っておりますが、改めて少子化対策について市長の御認識

をお伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） やはり1番は暮らしやすい、働きやすい、ずっと住んでいたい遠野市を作ること、そういうふうにあります。

子どものことに関しては、子育て支援はわらすっこ条例やわらすっこ基金、わらすっこプラン、三本柱があります。これだけではやはりそれには不十分ということは、もう今わかるわけですね。各種の制度も必要だし働く場所も関係してくる。教育のやり方、これも関係してくる、さまざまな部分をグレードアップ、ステップアップしていかなければ、それは人口減少につながって、強いては少子高齢化、少子化につながっていく。

何から始めるかということもありますが、しっかりと各分野に向かって取り組む、これが大事だと思います。不足部分については関係者と協議して、何をプラスして始めていくかということを考えていきたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後2時00分 休憩

午後2時10分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） 少子化対策につきましては、昨日からの一般質問での御答弁でもございますが、やはり特効薬はないと。私もそこは同感でございます。なのでしっかりと処方箋を出しながらですね、トータル的にしっかりと着実でもしっかりと進めていく必要があるんだと感じております。

やはりこの少子化の、私ですねこの要因というものをちょっといろいろ調べて考えた結果としてですね、やはり具体的には、出会い、結婚、妊娠、出産、育児、子育て、教育、若い世

代全般への支援、だいたいこういったものをしっかり切れ目ない支援で支えていくこと。

もう一つが、男女共同参画をしっかりと推進して、共働きを前提した社会環境を整備していくこと。

そしてもう一つ、三つ目が、やはり若い世代の所得、可処分所得とかですね、やはり自由に使えるお金、これをしっかりと増やしていくこと。やっぱりここがポイントになります。いろいろ内閣府等いろんな調査を見ますと、やはり年収300万の壁っていうのもあるようでございます。年収300万境に、結婚したくてもなかなかできない、そういったカップルがこう一つの分かれ目になってしまっていたり、あと所得自体、今若い方、1997年頃は平均賃金500万ほど、30代前半でというデータもございますが、2017年のデータでは、これがもう300万円台に下がっております。その上、大学の授業料であったり、出産にかかる費用、社会保険料の負担、これもどんどん増加していると。ますますちょっと若い方々がなかなか経済的にも大変な状況にちょっと向かっているというのがやはり現状です。そういったところもきめ細かくサポートしていく必要があるのかなと感じております。少しちょっと欲張ってしましまして時間がなくなってきたので、ちょっと簡潔に御質問をしたいと思っております。

先ほどの御答弁の中で、何が不足しているのか、何をプラスしていくのか、これしっかりと協議をしていくという御答弁がございました。

私なりにちょっと今現時点で、もうちょっと後押しをして応援をしたほうがいいかと、ちょっと足りてないんじゃないかなと感じているところが、結婚への支援でございます。

遠野市では出会いの支援行っておりますが、結婚して新生活を始める、結婚式を挙げる、あるいは新しいお家ですね転居するとか、そういったところの経済的不安でなかなか結婚に踏み出せない、そういった若い方がやはりかなりいらっしゃるというデータも出ております。

ちょっとデータの説明すると時間がかかってし

まうので、申し訳ございませんが。

そういった意味でですね、岩手県として、やはり国と連携して結婚新生活支援事業というものに取り組んでおります。県での事業ですが、これに参加している市町村、県内に何カ所かございまして、ただちょっと遠野市のほうではこれにちょっと参加をしていない状況でございます。ぜひですね、これは岩手県としても全国からみてもですね、都道府県主導型市町村連携コースという、ちょっとまたこの事業でもちょっと特別な事業に、岩手県積極的に取り組んでおまして、いろいろ補助率であったり、実際御夫婦に支援をするですね、助成金の額であったりさまざまの優遇をされている状況で、今岩手県では取り組んでいるようでございます。

ぜひ遠野市でもこの結婚新生活支援事業、こういったものにもしっかりと取り組んでいく必要があると思っておりますが、お考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） この間も、庁内でそういう話が出てきました。私最初は知らなかったんですねこの事業。ちょっと聞いたときは何となく一過性的な感じもして、どのぐらいの効果があるのか、それとなんかそのこれから生活していく生活力っていうことを考えると、お金の一時的な助成でっていうことなのかどうかって、少し疑問を持ってました。

庁内で検討したところ、やっぱりいろんなチャンネル、いろんな方法でそのきっかけを作るってことは大事だよねという話も出てきまして、いずれにしても来年度盛り込んでいくかどうかっていうのは、これから検討しようということに現在のところなっております。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） この事業、確かに一過性のものになってしまうという御指摘はそのとおりでございます。

ただ、やっぱりきっかけを作るっていうの

は大事なことでございますし、ただ、この事業を支援をいただくには男女共同参画に関係するセミナーも講習するというので、そういった意味では新しい生活始める上での男女共同参画についての考え方であるとか、そういったものも学ぶ機会も一緒に得られるということで、ぜひ御検討いただきたいと思っております。

やはり大事なことは、これまでの市長の御答弁でもありましたが、やはり賃金、賃上げですね。やっぱりこういったところをしっかりと取り組んでいくということも、これは避けては通れない取り組みだと思っております。

働きながら学んでスキルアップを図る社会人の学び直し、これが注目をされております。若い世代の所得向上、こういったものにもスキルアップしていくことでつながっていく、給料が上がるっていうだけじゃなくて、そのスキルをアップすることで、それが会社の生産性の向上にもつながって、それがまた給料にも影響してくるということで、こういった「リカレント教育」、「リスキング」とも言われますが、こういったものも市内の事業者さんとしっかりと連携取りながら進めていく必要があるかと思っておりますが、御見解をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 人間一生勉強だと、そう思います。そしてやっぱり勉強するってことは、新たな世界を知ることにもなるし、自分磨き、自分発見にもなっていくと思っております。

ですから、勉強する環境を作っていくということは非常に重要だと思います。働き方改革も進んでいて、勉強する時間だってしっかりあるようになってるわけだし、SNSでの勉強も必要です。さまざまなその機会を作っていきたいなど。

これから遠野でも例えば農業に関することでもですね、こう見える化して行って、いろいろ情報提供していきたいと思っております。

例えば、企業なんかに関してはですね、専門技術をもっと磨くっていう部分は自分の職場

でのスキルアップっていうことにもつながってくるはずですから、そういう部分については企業さんの方がよく情報持ってると思っております。

いずれにしても、そういう学ぶということに関して遠野市の中で機運が高まること、これが重要ではないかと思っております。そして、みんなが積極的にそこに飛び込んでいくっていう、そのきっかけづくりが大事だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） コロナ禍という不安や恐怖から生じた誹謗中傷や差別、突然ちょっと話し変わってしまうんですが、本当に今年、去年、今年とそういったところを本当に感じているところです。本当に改めて今一人ひとりがお互いの違いを一つの個性として受け止めて、認め合う多様性を尊重することの重要性を実感しております。というのも先ほど男女共同参画、やはり大事だということで、その男女共同参画の推進について少しちょっと議論できたらなと思っております。

男女共同参画基本計画にこの「LGBTs」昔は「LGBT」のみだったようですが、今「LGBTQ」とか「LGBTs」という表現をされるようになったそうです。その性の多様性の尊重という方向性が計画の中に示されました。

これから大事なことは、実際にですね当事者の方から講演会を行うとか、視聴覚教材による研修会を開催するとか、実際そういった支援が必要な方に対してはどういった取り組みができるのか。やはりそういった調査や研究、課題の整理、そういったことにもこれから計画を実際進めていくっていう段階に今度入ってくると思っております。この性の多様性についてのお考え、多様性が尊重される地域社会に向けて、今後どのように取り組まれていく必要があるとお考えなのか、ちょっと市長の御認識をお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常にデリケートな問題だと思います。

多様性、つまりダイバーシティですね。これを進めていくということは、仕事の分野でも、生活の分野、いろんな社会の中であることです。例えば、仕事に関して外国人の方も入ってくる機会が多くなる。これは、さまざまなリスクも生じてきます。宗教的なこと、例えばセクシャルマイノリティ、ジェンダーの考え必要になってきます。そうすると必ずそれは個性でなくて差別っていうものにつながる可能性があるって、それがハラスメントにつながる。ハラスメント、この被害を受けた人をどういうふうにしてサポートしていったらいいかっていう努力も必要になってくる。それぞれの問題解決の出口ですね、これも必要になってくる。この点については何というんですか、いろんな角度から入っていかなければいけないので、議会としても市としても例えば、その結果ハラスメントがあるとすれば、ハラスメントに関するさまざまな何て言うんですか、倫理的な申し合わせ、どういう形かわかりませんが、これは必要だと思います。

ただ、その多様性に関してのその方法論っていうのは具体的になっていくわけですね。ですから、議会でもあまりこういう話しはされたことがないとは思いますが、その前段階として、導入を私は議会でないところから、デリケートなので、意見交換会、勉強会みたいなものを用意して、そこから皆さんの意見を集めて、そして方向性を付けて行った方がいいんじゃないかな。

なぜならば、例えば、こういう問題に関して市長が個人的な意見を言うことは、その当事者たちにすれば非常にショックなことにもつながるので、なかなか意見を申し上げるのは控えたいなところもありますので、その辺これから、それこそねいろんな会で、研究会でもいいですから展開していったらいいかなというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） ぜひ、その草の根のやはり理解促進、あと自分ごととして市民お一人ひとり皆さんが考える機会、そういったものやはりこれから作っていったらいいかなという理解の普及と、あと「じゃあ具体的にどうしたらいいんだ」というやはり議論に持っていくことがやはり大事であると感じております。

その延長線上にパートナーシップ制度等もあると思いますが、ちょっとこの点について質問項目にはしてはしましたが、私ももう少しいろいろ調査もしたいところございますので、またの機会に市長と議論させていただきたいと思っております。

ここでちょっと1回、教育長にお伺いをいたします。

制服選択制度、これも多様性に関係する一つの取り組みとして注目をされておりますが、この制服選択制度を導入する自治体、これも増えてきております。

多様性の配慮としてだけではなくて、冬の寒さ対策、通学や学校生活での機能性、動きやすさの面からスカートとズボンを自由に選べる取り組み、これが制服選択制度でございます。

この制服選択制度について、教育長はどのような御見解をお持ちでしょうかお考えをお伺いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 中学校の制服についてでございます。

現在の3中学校の制服は遠野市学校づくり協議会とその学区部会等が中心となりまして、児童生徒、保護者を対象としたアンケート結果等に基づきまして、上位数点のサンプルの展示会を実施し、その後それぞれの中学校が中心となりまして、細部の検討し協議し決定をしているところでございます。

採用して今年で9年目ということでございますが、この間制服に関する相談や要望等の報告はないものと承知してございます。

一方、冬の寒さ対策や学校生活においての機能性や動きやすさといった観点から、女子の制服においてスカートとスラックスの選択ができるように配慮した学校が全国的に増えてきているということは、制服の販売店等から伺ってございます。

性の多様性に係る学校への相談は、現段階では承知してございませんが、このことも含めまして児童生徒等から相談があったときには、児童生徒等の心情等にも十分に配慮し、寄り添いながら適切に対応してまいりたいと考えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） この制服選択制度についても、やはりあわてて取り組むとかそういうことではなくて、やはりしっかりPTAも含めて、そういった「LGBTs」そういったものを理解、普及進めていくなかで、やはり議論としても、あといろいろ考え方としても出てくるものかなと実感をしております。

そういった意味では、チャンネル広くしていただいて、積極的にそういった多様性についての情報発信も含めて、取り組んでいただけたらなと願っております。

若者のがん対策、最後1点お伺いをいたします。ちょっと大項目三つ目は、ちょっと時間ございませんので、また別な機会に質問したいと思っております。

女性特有のがん対策として子宮頸がん対策、テーマを絞り質問をいたします。

これまでワクチン接種の積極的勧奨、これ方がちょっと中止をされておりましたが、このたび約8年振りに、子宮頸がんワクチン接種の積極的勧奨が再開されることとなりました。令和4年4月より前でも準備ができたい勧奨が可能とのことですが、本市においては、この積極的な勧奨についてはどのように取り組もうとお考えなのかお示してください。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） これ重要なことですね。これはしっかりと教育と周知が必要だと思います。

令和2年10月に国からの通知で対象者に対して必要な情報の提供依頼があったと聞いております。今年度は6月に接種対象である市内の小学校6年生から高校1年生相当の女子に対して、接種についての周知を行ったとあります。

周知方法は小学6年生から中学3年生までは、学校を通してリーフレット配布をされたほか、高校1年生相当に対しては、相当というのは高校に通われていない女子もおりますので、個別に郵送して周知したということです。

市では令和4年4月から定期接種対象者への奨励を行い、確実な周知を図るその努力をしますというふうに考えております。

○議長（浅沼幸雄君） 6番小林立栄君。

〔6番小林立栄君登壇〕

○6番（小林立栄君） まずはしっかり情報としてお伝えをするっていうことが大事でございます。その上でそれぞれのご家庭での判断となると思います。この点についてもこれからもまた議論していきたいと思っております。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、暫時休憩いたします。

午後2時30分 休憩

午後2時31分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 佐々木恵美子でございます。私は来年4月から導入する学校運営協議会について伺ってまいります。

質問に入る前に、この学校運営協議会制度の国の経過に触れさせていただきます。

学校運営協議会は、平成16年に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正して導入された制度です。平成16年9月9日から

施行されておりますので、既に17年経過しております。

この学校運営協議会というのは、保護者や地域住民などを委員とした合議制の機関であり、その主な役割は、一つ、校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること。

二つ、学校運営全般について教育委員会または校長に対して意見を述べること。

三つ目、教職員の人事について任命権者である教育委員会に対して意見を述べることであります。

こちらを少しわかりやすくお伝えしますと、校長先生が作成する学校運営の基本方針を承認する。これにつきましては、基本的にはPTAの皆さん、地域の皆さん、あるいは専門家の皆さんと一緒に学校運営協議会が校長の作成する学校運営基本方針について承認するってことでございます。つまり校長先生が変わったから校長先生が自分勝手に学校運営の基本方針を決めることはできません。うちの地域にはこれを大切にしたいということを校長先生と一緒に聞きながら地域と一緒に決めていきたいと思いますという内容のものです。

学校運営の中には課題があります。それは校長先生に伝えることができます。これは学校運営全般について、教育委員会または校長に対して意見を述べること、この内容につきましてかみ砕きますと、校長先生に学校の課題を校長先生に伝えることができますが、学校運営協議会のほうで直接教育委員会にお伝えすることができるというものと解釈しております。

三番目の教職員の人事についてのことで、教職員に任用に関して教育委員会に意見を述べることができます。これは、例えば「あの先生いやだから」とか「だめだからやめさせて、変えさせて」みたいなことを言うのではなくて、「うちの学校にはこういった学びを大切にしたい」「例えば情報の部分をもっと強化していきたい」「情報に強い先生をうちの学校に派遣してくれませんか」など、「ちょっと困難な状況もあるので教職員が足りませんが、もう少し

配置してもらえませんか」ってことを教育委員会に学校運営協議会が伝えることができるというものというふうに理解しております。

学校運営協議会は、保護者や地域住民のニーズを学校運営によりいっそう反映させる制度のことでございます。

この学校運営協議会が設置されている学校のことを、地域運営学校とかコミュニティスクールという名称で言われているわけです。

導入状況につきまして、令和3年5月1日時点で全国では小中学校の37パーセント、岩手県の小中学校は11月1日時点で73校が導入しており16.4パーセントというふうにお聞きしております。

岩手県では平成19年に岩泉町が全小中学校に設置したのが最初でした。

学校運営協議会と聞いて、それは子どもたちやPTAが関わることだよねと感じている方もいらっしゃるかもしれませんが。

制度ができて17年。そのときに既にもう導入されている全国の事例を見ますと、この学校運営協議会制度を導入した、実践した結果、地元の子どもや大人たちの効果だけでなく、教育を目的にした移住、山村留学が増え、地域が活気づいたなどと紹介されております。子どもたちやPTAだけでなく、地域の皆さんの知恵やサポートが必要、それがなければ実現しないことなのかもしれません。

「コミュニティスクールだったら今までもやってきたよね」「これまでと何が違うの」という保護者の声もありますので、私も理解を深めたい思いを持って質問に入らせていただきます。一問一答で教育長にお伺いします。

文科省は、学校運営協議会の設置を努力義務としております。

遠野市がこの制度を導入する目的と、設置については市内小中学校全てが対象となるのでしょうかお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。なお、菊池教育長は新型コロナウイルス予防のため、マスク着用のまま答弁願います。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会設置の目的でございますが、ちょっと経緯も含めまして答弁をさせていただきます。

議員御案内のとおり、平成16年に法の改正によりまして学校運営協議会という制度が発足いたしました。これも目的につきましては、先ほど議員御案内のとおりでございます。

このことを受けまして、岩手県教育委員会では岩手型コミュニティスクールと称しまして、学校経営の評価が客観的にできるように可能な限り数値目標を設定した「学びフェスト」、現在でも遠野市内全ての学校にございますが、この学びフェストを作成する取り組みを進め、本市を含めまして県内全ての公立小中学校は、学びフェストにより外部評価を実施しているところでございます。

本市におきましては、この頃の平成16年以前から学校応援団として地域教育協議会を組織しておりまして、学校は地域とともに学校運営を実施してまいりました。

国におきましては、平成29年になりますが、この法改正をさらに行いまして、従来の学校運営の協議に「学校運営の支援に必要な事項について」という部分を加え、任意設置から努力義務化というふうにし、全ての教育委員会に学校運営協議会制度への移行を促しておりますし、県においても、これを推奨しているところでございます。

本市におきましては、令和3年度から開始した小さな拠点の考え方を踏まえ、地域の皆さんの学校運営への参画を得て、学校や地域を取り巻く諸課題の対応、遠野ふるさと教育の推進等を進め、遠野の宝である子どもたちの生きる力を育むことを目的としまして、今までよりも一歩踏み込んだ取り組みを進めようとしているものであり、学校運営協議会を中学校区ごとに設置する方向で準備を進めているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） ただいまの御答弁で、学校運営協議会の設置は中学校区で設置する。遠野市の場合は、遠野中学校区、遠野東中学校区、遠野西中学校区、三つの協議会の設置を予定しているとのことですが、小学校ではなく中学校区ごとに設置する理由をお聞かせください。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 先ほど、国においては平成29年に法改正を行った旨の答弁をいたしました。

この改正の一つに、小学校に在籍する児童のうち、多数の者が進学する中学校において、これらの学校が相互に密接に連携し、その所在する地域の特色を生かした教育活動を行う場合は、二つ以上の学校について、一つの学校運営協議会を置くことができるという規定がまずございます。本市におきましては、学力向上に係る取り組みを義務教育9年間を見据え、中学校区において実施しており、今年で9年目を迎えてございます。

また、昨年度は小中高を貫くキャリア教育の視点でキャリアパスポートを作成し、本年度はその活用について、市の教育研究所で協議しているところでもございます。

学力向上の取り組みのみならず、中学校区において生きる力を育むことは、大切な視点と考えてございます。

この9年間の取り組みを地域の皆さんと共有し、地域の皆さんが主体的に学校経営に参画していただくことが、今までの取り組みをさらに一歩進める形となり、子どもたちの生きる力を育む取り組みを確実に進めることになると思います。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 今の御答弁については分かりました。ですが私が考えますのは、生きる力を培うのはもちろんですけども、その

やっぱり小学校からのきめ細やかな人間関係であるとか、知力を培う、それがやっぱり基本となるべきだと思うと、やはり小学校から丁寧な地域の方からの関わりと信頼関係を得て、それから中学校に行くっていうのが望ましいと思えるのですが。そう考えますと中学校区ではなく、小学校区、小学校ごとで設置する計画のほうがよろしかったのではないかと思います、ここまでの協議するなかで小学校区が良いんではないかという意見等はございませんでしょうか。お伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会は学校に設置することができますので、小学校に置くこともできる、もちろんそのとおりでございます。

現在中学校区に学校運営協議会を置くというふうにお示したところでございますが、実際にはそれぞれのところにこの下のところですね、部会というものを設けようというふうに考えてございます。つまり、例えば4校から5校、その学区には学校があるわけですが、それぞれが部会というふうなもので、それぞれの学区の独自の取り組み、または地域で大事にしているものの継承等はこの部会で進めていき、それを承認するところが中学校の学校の運営協議会、つまり中学校区でどんなことをやっているかということが中学校区の学校運営協議会で、全ての学校、全てのPTAの方、全ての地域の方が共通理解できるというふうな仕組みを考えているものでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） ただいま御答弁の中での部会を設ける。例えば遠野中学校区にしますと、綾織小学校、附馬牛小学校、遠野小学校、遠野北小学校が部会四つができるよっていうイメージしてると思ったのですが、もし違いましたら御訂正お願いします。

私のいただいている資料に基づきまして、

ちょっともう一度確認しますと、中学校に運営協議会ができます。その下に小学校部ができるっていう考え方ではない。ちょっと私の解釈の仕方が間違っているのではないのでしょうか、ちょっと御確認します。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） この学校運営協議会の組織をどうするかということですね、それぞれ話し合いを持ちながら進めてきているところでございます。

当初は、例えば遠野中学校で言うと、遠野中学校を学校運営協議会とした場合には、中学校があるわけですので、その下に小学校が四つある。ところが今回は、遠野中学校区の学校運営協議会、こういうことを考えています。

ですから中学校区にあるのは四つの小学校と一つの中学校、ですから五つの部会があることになります。

よって、それぞれの学校が学校独自の取り組みもできるし、そして一堂に会したときには9年間で、「小学校ではこんなことやってるよ」ということを、情報共有しながら9年間を見据えていけるというふうな組織としたものでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 遠野中学校の中学校学区では部会が五つっていうことで確認しました。

その学校運営協議会の委員について御確認します。学校運営委員会の委員は特別職の地方公務員の身分と確認しております。

一地区の学校運営協議会の委員の数と会議の頻度、報酬があるのかどうなのか、それとあと委員にはどのような方を想定しているのでしょうか。ちょっと数多く述べましたけども、御答弁のほうお願いいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 三つほどあったよう

に受けとめてございます。

まず、学校運営協議会の委員でございますが、これは法によって規定されてございます。四つございます。一つは、対象学校の所在する地域の住民の方。

二つ目は、対象学校に在籍する生徒児童の保護者の方。

そして三つ目は、社会教育法で規定する方。

そして四つ目は、その他当該教育委員会が認める方、ということになってございますので、本市におきましては、このことを踏まえた形で人選等を行っていききたいというふうに思っております。

それから報酬についてでございますが、これは法に示されてございません。各市町村によってさまざまでございます。無報酬の所もあれば年額払い、月額払いと費用弁償のみという所もございます。ここににつきましては、遠野市の規定に照らしながら適切な形で検討してまいりたいなというふうに思っているところでございます。

それから、先ほど委員のところでは社会教育法上認められたというふうなことをお話ししてございますが、これはですねどうということかと言いますと、地域コーディネーターとかそういうふうな役割を担いながら、学校の活動に参画している方。またはPTA関係者で、その経験者である方、退職の教職員等が例示としては示されておるところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） いろいろ部会もありますのでね、委員会や協議会の委員の数は、けっこうな数だなというふうに感じております。委員の数、その割合ですね、男女平等の観点も御認識されているかと思っておりますけども、ぜひその辺も踏まえて任用していただきたいと感じております。

また、その委員の任期につきましては、どのようなことになるのでしょうか、お伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 委員の任期につきましては、法による定めは実はございません。

本市で考えている現段階ではですね、単年度の任期にしまして再任を妨げないような形で連続性も担保したいなというふうに考えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 先ほども委員の想定について、どのような方が委員になるのかとの御質問に地域のコーディネーターも検討されるかもしれないってことでしたけども、含まれるかもしれないってことですが、事前にいただいた資料の中にですね、エリアコーディネーター、その役割の方の任命を考えているようです。その方の役割といいますのは、学校と地域をつなぐ役割っていうように捉えておりますが、このエリアコーディネーター、中学校区に1名というのは、少しその方への御負担が大きいのではないかとふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） エリアコーディネーターについて、若干説明をさせていただきますと、この方は先ほど部会の話をしてきましたが、全ての部会に顔を出すこととなります。そして、全部が集まった中学校区の学校運営協議会の会議にも参加をすることとなります。ですから、議員御案内のとおり地域と学校を結ぶ非常に重要な役割を果たすということになってございます。

その負担というふうなこともございましたが、実際にこの制度でまだ走ってございません。構想としますと、令和4年度は今やっていることを今の新しい組織でどういう風に運用できるのか、そしてその時に負担なりまたは調整するところがあるのか、そういうことを来年度見据えて進めてまいりたいというふうに考えてござ

います。

よって、それを基にしながら令和5年度から本格的なスタートというふうな形で今現在は検討しているところでございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 令和4年度は、試運転してみてからその後のいろいろ検討をするべきところを、課題を改善されていくっていうふうに捉えました。

このエリアコーディネーター、各中学校ごとに1名、先ほどの例えで出ました遠野中学校区では町に言い換えますと、遠野町、松崎町、綾織町、附馬牛町、それを1人のエリアコーディネーターが地域と学校をつなぐ橋渡しということで、エリアが広がるなっていうふうに感じました。ほかの中学校区でもそのようなことだと思います。遠野西中学校で言えば小友町、宮守全域ですよね。エリアが凄く拡大されるので、その辺の負担がちょっと気になったので、お尋ねしました。ですが、施行してみたらいろんな不具合を改善していくってことでありましたので、承知しました。

次にですね、この学校運営協議会の委員の人選についてですね、公募ではなくて学校長が推薦する地域の方や、小中学校のPTA会長を任命するっていうふうなことを検討されていると確認しておりますが、先ほどもありましたけども、地域外から専門職の知識を持たれた例えば、コーディネーターさん。地域以外からの委員を人選することについては、そのお考えがないのかお伺いします。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校運営協議会の委員は、最終的には教育委員会が任命するということになってございますが、各学校の校長先生は、教育委員会に対して「この方がいいですよ」ということを口にすることができるということも、法で規定されてございます。

先ほど申し上げましたように、委員の性格

は地域に住んでる方、PTAの方、そして社会教育法、そして校長先生が推薦する者とありますので、特にもこの校長先生の推薦する方というのがですね、いわゆる有識者であったり、また、これは合議制で決定したものですので、それぞれの考えをまとめられるような、そういうふうな力を有してる方というふうに考えますと、地域にこだわるものではないというふうな性格を持っていますので、校長先生が人選するに関わっては、当該地域に関わる必要はないというふうに捉えてございます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 先ほどからの遠野中学校区を例として、いろいろと質問と答弁をしてきたなかで、確認させていただきたいことがございます。

遠野中学校には現在支援学校の分教室があるわけなんですけども、その分教室のお子さん、保護者、その方たちの声というのはどなたが届ける形になるのでしょうか、PTAになるのか、それとも分教室からも、保護者等を運営協議会の委員として交えるっていうお考えは持ちでないのか御確認します。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 学校の性格から申し上げますと、分教室は県立の花巻清風支援学校の分教室ということになってございます。学校運営協議会は、当該校の学校運営の基本方針について承認をいただくものでございます。

よって法的にはですね、県立学校ですから花巻清風支援学校の学校運営協議会でその分教室の方々はその運営に関して意見を申す。遠野中学校区は遠野市立の学校ですので、義務教育でございますので、遠野中学校区の中のことを協議する、承認するというふうなのが基本的なスタンスでございます。

ただ現在、実際に同じ校舎で交流学习等もしているところでございますので、そのことにつきましては今後持ち帰って検討したいなとい

うふうに思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 最後は検討していただくという御答弁いただきましたので、今後の経過をまた機会があれば確認して行きたいなというふうに考えております。

分教室とは別ですけども、いろいろな事情から小中学校に通えない、生きづらさを感じているお子さんもいらっしゃいますし、保護者の方もいらっしゃるわけですけども、その方たちの声ってのは、どういった形でその学校運営協議会のほうに届けられるのでしょうか。この点お聞かせください。

○議長（浅沼幸雄君） 菊池教育長。

〔教育長菊池広親君登壇〕

○教育長（菊池広親君） 当該校に在籍している児童生徒ということでございますが、これをですね、それぞれのもちろん児童生徒そして保護者の方からの学校への情報の提供なりご相談なり、こういうのを頂戴しながらそこに、受けた段階でですね、きちんと適切な対応をしていくことが肝要であろうというふうに思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 学校運営協議会というのは、多分学校教育の部分だと思うんですね。そして地域の学びってというのは社会教育の面だと捉えています。学校教育と社会教育が混ざった効果っていうのは、かなり大きいものだというふうに感じております。子どもの教育、地域の大人の学びだけではなく、その波及効果って結構あると思うんですね。

私がちよっといろいろと今回調べて感じましたのは、学校教育自体が、私、保護者世代が教育されてきたものとはずいぶん大きく変わってきているなというふうに感じておりますし、高校、大学入試も学力だけではなく、それこそいろんな知力を持ち合わせた入試内容に今後変わっていくという動きもございますので、こ

の学校運営協議会制度が導入されまして、子どもたちにとっても、保護者にとっても、地域にとっても、よりいっそう本当に効果を生むような制度の導入であればというふうに期待しております。

続きまして、大項目2の質問に入らせていただきます。

多田市長の所信表明にある「人の可能性がひろがるまち」のビジョンについて、その中のスポーツ振興、おそらくこれは社会教育としてのスポーツ振興と思われるんですが、スポーツ振興と指導者の育成について、今時点のお考えはどのようなことを思っているかお伺いいたします。

併せて、既には取り組まれている市のスポーツ振興の事業、特に支援事業について、御紹介を願いたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先に今取り組んでいる支援事業のほうを説明させていただいて、それからお話しをしたいと思います。

今、就学前からのスポーツ、巧緻性を鍛える、運動神経良くすることですね。このために就学前の子どもたちについては、リズム体操、体を動かすことを楽しさを体験させながら、バランス感覚を養う「キッズ元気アップ応援隊事業」っていうのを実施しています。

次に、小学校全般について、体育の授業に専門性の高い講師を派遣し、運動能力の向上を図る「児童運動能力アップトレーニング事業」に取り組んでおります。

各種目の競技力の向上については、プロスポーツ選手経験のある指導者とハイレベルな指導を受ける「ジュニアスポーツレベルアップ事業」を実施しています。

さらに、子どもたちのスポーツ大会の出場に係る支援として「遠野市立学校体育文化事業補助金」というものを作っております。

遠野市スポーツ少年団は「各種スポーツ大会選手派遣費」というものを設けております。

これらの支援の要件に該当しないものについては「遠野市次世代スポーツ選手全国大会出場補助金」これを設定しております。

また、日頃の活動への支援として、スポーツ施設の使用料の免除、また50パーセントの減免、「わらすっこ基金施設使用料サポート事業」というのを併せて実施しております。

これは、平成31年4月から取り組んでいるものです。これが現在のところの支援の事業であります。

次に、育成、指導者の育成とかどういふような形でやっていくかということについてですけども、これは新たな感覚、今までもスポーツ団体、それに応じてやっているところはあります。でもこれをしっかりと意識する第一歩と考えています。まず大事なのは親御さん、子ども、そして地域、スポーツ団体、市が一緒になって夢に向かっていく。この意識。子どもを元気に育て、そして競技力を向上し、地域力もアップし、そして子どもの未来に可能性をつなげるというふうな考え方のスポーツにおいての、何ですか、夢を持って進むという意識づけというのが必要だと思います。

オリンピック選手を育てようという声をかけてるのは、その意識づけの第一歩、こういうふうに捉えていただければよろしいかと思いません。

つまり、その土台。これをしっかり作っていくってことを考えると指導者ってことが当然出てきます。いきなり指導者育成っていうのは、これまでにやってる段階ではあるんですけども、先ほど申し上げたプロスポーツ経験者とかですね、そういう方の指導、ノンプロも合わせをするためには、お金も必要です。ですから、しっかりした運営をできるように「総合スポーツクラブ」っていうものをもう一度見直して、社会スポーツとして取り組んでいく必要があるということになります。その土台を作る、これが総合型スポーツクラブを進めていったほうがいいという理由です。

いろんなスポーツにおいて、現在アマチュ

アでほぼボランティアで指導されてる方も多いと思いますが、これもさらに進歩していく、また高齢化していくこともありますから、指導者という形で若い人を遠野に呼び込む、定住する。さらにはその先にスポーツ指導者として生計を立てられるようにしていく必要は当然あるだろうと、そういう考えからです。

もう一つは、スポーツ団体別、それと地域っていう形でスポーツが進むと思うんですけども、各スポーツ界で指導者の育成っていうのは、事業としてあります。またこれの補助もそれぞれであったりします。これらもしっかりと使っていくというのは、その総合型スポーツクラブを活用したほうがやりやすい。

それから、スポーツ別にしっかり指導者研修っていうものがありますので、そのランク付けとかライセンスっていうものもありますので、それも同時にそのスポーツクラブの中で、もしくは競技別スポーツクラブの中で、もっと強化していくってことが必要だという状況なので、その辺を進める。まずは土台を作る。それと地域、それと各種スポーツ団体別に強化を図る。そして研修を重ねる。あとは、運営体制をしっかりと作っていくと。遠野には結構多くのスポーツクラブがある、もしくはあったんですけども、やっぱり高齢化・人口減少によって活動が休眠状態になっていることもあります。しっかりとその辺もまた新たにスタートできるような体制、もしくはまた違った形でスタートできるような体制にしていって、子どもたちの可能性を広げられればと。同時に地域づくりに貢献できればという考えです。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 今の市長の御答弁から、指導者の育成には時間がかかるなっていうに思いました。ですが、子どもたちは待っているのはどうでしょう。今今その指導、「自分は技術を高めたいんだ」ってお子さんに対しての、やはりこの指導者の育成というのは凄いい期待があるものだと思うのですが、そのすぐでき

る指導者、指導というのは何かあるのではないかと思います、いかがでしょう。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 例えば、予算化をすれば今プロスポーツ選手の経験ある方が来て指導している、この効果っていうのはものすごく上がっていると、こういう部分もあります。これ予算化が必要です、今すぐということであればですね。

もう一つは、ある程度社会人スポーツでやってきた人。できれば遠野出身の方。この人たちが「さあ次のセカンドライフどうしようか」というときに地元に戻ってきてスポーツの指導者としての立場になる、これがあります。

これらが一番早い方法、レベルアップするための指導者の確保としては、これが一番早い方法だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 予算化すればすぐできる可能性もあるという話でしたけども、やはり予算についてもやっぱり金額的なものもいろいろあると思うんですが、私はせっかくこの今回遠野テレビの光化ケーブルが進んだことによって、必ずしも人が直接来て指導する以外に、オンライン等を通じて直にフォームを見てもらうとか、何かこう体づくりのアドバイスをいただくとか、そういう機会、それがすぐできる機会ではないのかな、指導いただく機会ではないのかなっていうふうにも感じますが、その辺についていかがでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 栄養のこともあると思います。筋力トレーニングとかバランストレーニングとかっていうのもあると思います。こういう点ではこれは有効だと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） それと、あとこれ

までの御答弁の中で、やはり総合型スポーツクラブの設置が運営が理想と捉えているようですが、やはりその運営には費用がかかりますし、そこに加わる方の参加費、登録費等が出てくるのではないかなってふうに感じました。

私、先日ちょっと県内のNPO団体がひとり親家庭の方にアンケートを取りまして、ちょっとその中の一つ紹介したいと思うんですけども、この方はお母様が1人でお子さんを育てながら生活している方でした。お父様がいないので運動的なものはなかなか教えられず、習い事もさせられないのでスポーツ教室のようなものがあればいいなって声がありました。

家庭の事情でスポーツすることを諦めさせるのではなくて、できる機会、できる仕組みを作る、これも財政のお金の支援、金銭的な支援ではなくて、そういったサポートする、これも社会教育の中のスポーツ振興ではないかと考えますが、その点はどういうふうに考えますでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午後3時14分 休憩

午後3時24分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。2番佐々木恵美子君の質問に対する、多田市長の答弁から行います。多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今の御質問だと、ハイレベルスポーツとは少しちょっと違う角度かなというふうに感じました。

指導者の確保というのはいろんな形がありますけれども、いずれにしても、なぜこういう提案をして、みんなで一緒に夢を追いかける第一歩にしましょうと言っているかと言いますと、指導者を確保して食べさせる。言葉はあれですけども、というのが難しいからです。だからいろんなスポーツ分野でみんながボランティアでやったり、学校外コーチを務めたり、そうやっ

てやってるわけです。

このシステムを取り組んでいくためのスタートをしましょうと。ですから今いろいろある疑問を、そういう作る、意見出し、プランニングの会を開催して、各スポーツ界でさまざまボランティア活動やコーチやってる方々、集まっていたいて、その点を話しして共通意見を持っていく必要があるというふうに考えています。

もう一つ、いろんな意味で農業にもつなげられるかなど。これ私個人の単純なプランです。農業が企業や団体、組合などのような形で運営する必要があると。その働き手、これにスポーツ選手を誘導するという方法もあります。遠野の農業をしながらスポーツをする。これも一つの方法だと私は思っています。

いずれにしてもいろんな方法を提案しつつ議論をして、遠野でスポーツを盛んにしていかなければならない。簡単ではないということ、これは十分承知ですが、みんなでチャレンジしましょうという気持ちであります。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 指導者を確保して、生活維持させていくことが厳しい状況下だ。それでもそれをどうやったら実現できるか。スポーツ選手を農業の方にサポートで行っている全国的にある取り組みはニュース等でも私も承知しております。

コロナ禍に至っては、スポーツ大会がないということで、スポーツのプロであったり、いろんな方が農家の収穫作業手伝っておいりました。その取り組みも確かに魅力的には感じております。

今御答弁の前に私がお伝えした、なかなか家庭の事情からスポーツ教室に通わせることができないんだけど、何とかそれを実現させたいなっていうことにつきまして、御答弁いただいてもよろしいでしょうか。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） もう本当にそれは考えなければいけないですね。

あるスポーツ団体、スポーツ団体にもよりますけれども、そういうふうな機会は作っているスポーツ団体はあると思います。また、地域でもそういう機会を作っている地域はあると思います。

もっと積極的にコミュニティスクールとか、さまざまな活動の中で私はそれをプロスポーツレベルっていうことではなくて、進めていくことが一つ有効だなと考えてます。

もう一つは、その子どもを育てるための総合スポーツ団体、これに例えば英会話をくっつけると、これまたグローバルな教育になっていって、動きながらなので言葉が入りやすいっていうこれ実証もされていますので、そういうことも進めていけばよろしいかなと考えてます。

○議長（浅沼幸雄君） 2番佐々木恵美子君。

〔2番佐々木恵美子君登壇〕

○2番（佐々木恵美子君） 私もコミュニティスクール、先ほどの1項目めの質問での学校運営協議会、コミュニティスクールの取り組みの中で、そういったお子さんのスポーツする機会、そういう活動があってもよくなっていうふうに感じました。

また、全国の事例の中にやはりスポーツをしながら全て英会話でやるっていうような取り組みもやりましたし、いろんなことを組み合わせる子どもたちを育てていくことが、教育の手法の選択が広がるってふうに考えます。

今後、スポーツ振興、社会教育の部分に子どもたちの社会教育参加におきましても、持続可能な開発目標のSDGsの4番目の目標に「全ての子どもが男女の区別なく包括かつ公平な教育の機会を得ることの実現」とございます。

また、当市におきましては、わらすつこ条例の条文の中には、「子どもは遠野の宝であり希望です」というふうにあります。子どもを応援することは、私たちも子どもから希望を与えてもらっているというふうに私は解釈しておりますので、その辺を踏まえて今後子どもたち

に社会教育参加、その辺についても今後考えて
いただきたいということを御指摘といたしまし
て、私の一般質問を終わります。

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。本
日の会議はここまでとし、散会いたしたいと思
います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。
よって、本日はこれにて散会いたします。御苦
労さまでした。

午後3時31分 散会